

回収率 200% オーバーの 超馬券投資術

著者：石原剛太郎

この度はアットエイトの商品をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。
実践する前に以下の注意事項をよくお読みください。

■著作権について

本書は著作権法で保護されている著作物に当たります。

本書の著作権は、アットエイトに帰属しています。

■使用許諾契約書

本書に含まれる情報は、著作権法によって保護され、また秘匿性の高い内容であることを踏まえ、本書の一部または全部を複製および転載することを一切禁じます。(これにあたり、製作元アットエイトが判断した場合の行為も含む。)

また、オークションなどを通じて転売することも一切禁じます。

■免責事項

本書は著者の経験をもとにまとめたものであり、すべての読者の利益を保証するものではありません。

目次

本レポートを手にしたあなたへ.....	4
このノウハウを成功させる 為に必要な能力は「実行力」	5
これは年間200%の回収率を達成するための法則.....	8
では馬券術の 核心に入ります！	10
これはお遊びではありません.....	14
資金を配分について補足説明.....	16
感覚的な馬券術、論理的な馬券術とは？	19
あなたの馬券術を よりロジカルなものに.....	22
最初から優勝は狙わず、どんな場合でも常に後方待機、直線だけ追う.....	27
ここで一つ、良い参考となるレースをご紹介します	29
我慢が出来ない人には、年間200%の回収率を 達成することは不可能	31
我慢が出来ない人は、競馬では勝ち組には入れません.....	33
単勝馬券には、まだまだメリットがあります	34
単勝は、競馬センスを磨く	37
単勝馬券のメリット、おわかりいただけましたか？.....	40
勝負レースでは躊躇なく勝負する.....	41
勝負レースとは一体どのような レースをさすのか？	43
【法則1】 知識がないうちは、重賞レースで勝負せよ	47
【法則2】 オッズは参考程度、明確な 根拠を持って一番人気馬を切れ.....	50
【法則3】 一流騎手か、お手馬騎手でしか 勝負してはならない.....	51
【法則4】 馬体重は、その馬の知識が ないと意味がない.....	55
【法則5】 解説者のコメントほど意味の ないものはない.....	57
【法則6】 パドックなんて見ても無駄	59
【法則7】 厩舎コメントは、 具体的な事実だけを読み	61
【法則8】 血統書を一冊用意せよ.....	64
【法則9】 馬券の買い方を極めよ.....	69
あなたの馬券力を 飛躍的に向上させる為に	80
【1】 1992年の菊花賞から 学ぶこと	81
【2】 1996年の天皇賞春から 学ぶこと	84
【3】 2001年のジャパンカップから学ぶこと	86
【4】 2002年の有馬記念から 学ぶこと	88

【5】 2003年天皇賞春から 学ぶこと	90
【6】 2008年のジャパンカップダートから学ぶこと	92
【7】 2009年の有馬記念から 学ぶこと	94
【8】 2010年の有馬記念から 学ぶこと	96
さいごに	99
追伸	100

本レポートを手にしたあなたへ

まずは私、石原剛太郎の商品をご購入頂きまして、誠にありがとうございます。



「競馬でお金を稼ぐ」という、個人によって非常に結果の差が大きい現象ではありますが、このレポートがあなたのお役に立てる事を切に願いつつ、私が永きに渡り収集したノウハウの全てを、余すところなくお伝えしようと思います。乱文乱筆ゆえ、読みにくい部分もあろうかと思いますが、どうかご容赦下さい。

本レポートの作成コンセプトにつきまして、簡単に説明させていただきます。

このレポートは私の実体験を元にした感想をまとめたものであり、指南書の類ではありません。私が考案したノウハウの全てを紹介してはおりますが、実際にどの方法を選択するかは、レポートをお読みになる方にお任せ致します。

考え方や環境は個人によって大きく差があり、万人に共通して通用する方法というものは存在しないという考え方によるためです。また、競馬でお金を稼ぐという事は、少しやってそれで終わり、という種類のものではないと考えております。短期間で高収入を得る事に成功しても、そこがゴールではありません。更なる向上を望む場合や、達成した月収を維持するためにも、継続的な努力が必要となる場合が多いからです。そのため個人の環境によっては、選択する事の出来ない方法もあるかも知れません。(例えば仕事が忙しく、この馬券術を実践する時間があまり取れない、等)

そのような方にも出来るだけお役に立てるように、レポートは作成したつもりです。

各人のご判断にはなりますが、どうぞ有効活用して下さい。

石原剛太郎

このノウハウを成功させる 為に必要な能力は「実行力」

それでは早速、私の実体験をお話したいと思いますが、私はこのレポートで、本当にありのままをしゃべりますので、やや口調がきつくなったり、刺々しくなる部分もあるかも知れません。私の持つ知識を、全て本気でお伝えしようという気持ちから出ている事ですので、何卒ご了承頂ければ幸いです。

では、いきなり結論から言いますね。

このノウハウを成功させる為に必要な能力は、「**実行力**」！
これだけです。

実行力とは読んで字のごとく、実際に行動に移すチカラです。

オチもひねりもありません。

理屈を理解しただけで終わらせずに、実際に自分の頭と身体を使って、動いてみる。

実行するという事はそういうことです。

例えどんなに素晴らしいノウハウでも、行動に移さなければ全く意味はありません。やらなければ、知らなかったのと一緒です。

Big Tomorrow や、**ダイヤモンド**、**プレジデント**等のいわゆるビジネス関連の雑誌をご覧になる方は、「勝ち組」「負け組」という言葉をよく耳にされると思います。

あれは私に言わせれば、「やった組」「やらなかった組」と解釈しておおよそ間違いはないと思っています。

理論を理解しただけで満足してしまい、実行に移さない人って、案外多いのです。

「はいはい、わかったよ。実行に移せばいいんでしょ。それより早く本題に入ってくれよ。」

と思われている方が多い事でしょう。

わかりました。

もう少しお話ししたら、すぐに本題に入ります。もう少しだけお付き合い下さい。

他の事は忘れてしまっても、この言葉だけは覚えておいて下さい。

「実行力」

これがないと、この馬券術に限らず、おそらくどんな方法でもあなたは成功出来ません。断言します。

このレポートを全て読み終えた後、ほぼ全ての人が、

「ふーん、なるほど。そういう事ね。理屈はわかった。」

という感想を持つと思います。

ただ、果たしてその中の何割の方が、実際に行動に移すと思いますか？

驚く程少ないんですよ。

本当に事情があって行動出来ないという人も勿論います。例えば会社の都合とか、病気で思うように動けないとか。その場合はとても残念ですが、ある意味仕方ないのかな、と思います。

ですがそういう人はごくごく少数です。

実行に移さない人のほとんどのケースは、実行しないもっともらしい理由を正当化してしまうんです。

「このような理由から、このノウハウは実践するに値しない」とか。

自分に都合良く決めてしまうんです。

その方がラクだし、後ろめたさがないからです。

ノウハウを実践しない正当な根拠があれば、
「成功出来なかった負け組としての自分」
ではなく、
「無駄な労力を使わない賢明な選択をした自分」
が残るのです。

ハッキリ言いますが、そんなの賢明な選択でも何でもないですから。
単なる言い訳です。

言い訳をするような人は、このノウハウに限らず、どんな馬券術に手を出した
って無駄ですからね。
このレポートを手にとって頂いたあなたには、言い訳をせず、すぐに実行にう
つして欲しいと、心から願っております。

これは年間200%の 回収率を達成するための法則

それではお待たせ致しました。
いよいよ本題に入ります。

競馬歴23年の私が、そのほとんどの年において回収率200%を達成した馬券術について、余すところなく公開致します。

一つお断りをしておかなければならないのですが、私はこのレポート内で、23年の間に体験した事象について、具体的事例を交えて説明していきます。その中には、最近のレースだけではなく、20年以上前のレースを参考にして解説していくこともあります。

このレポートをお読みの方の中には、私より年配の方も多くいらっしゃるでしょうが、23歳未満の競馬ファンの方いらっしゃることでしょう。その方にとっては、この世に生まれる前のレース解説を読んで頂くことになります。

もちろん古いレースと言っても、中央競馬には変わりありませんし、データやレース映像はいくらでもご覧頂けるので、問題はないと言えます。ただ、馬の名前や騎手名がピンとこないというデメリットは、どうしても生じてしまいます。

大変申し訳ありませんが、そこは「勉強」だと割り切って、読み進めて下さい。過去のレースを学ぶ事は、明日の馬券を取る事にプラスの影響をもたらします。

実際にこのレポートでも、過去のレースを分析することにより、明日のレースに活かそうという試みをしております。

あなたの馬券検討に、とても役立つと思いますので、ご期待下さい。

それから、もう一つ大事な事をお伝えします。

このレポートで私は、知識を出来る限りあなたにお伝えする努力はしますが、勝負レースの選択や、どの馬を買うかという事は、あなたが決める事です。

あなたが、あなたの頭を使って、あなた自身が決定するのです。

ごく稀に、私のレポートについて、多大なる誤解をしている人がいます。

全てのレースに対応可能な法則の紹介を期待しているのです。

そんな魔法の法則なんて、存在するわけがありません。

正確に言うと、私が編み出した法則はたくさんあるのですが、それらは全てのレースに完全に対応する、という法則ではなく、「年間 200%の回収率を達成するための法則」です。

短いスパンで言えば、負ける事も当然あります。

今日一日、ひとつのレースもとれなかったなんてことも、ザラです。

ですが、それが何か問題でもあるのでしょうか？

よくある質問のひとつに、「的中率はどれくらいですか？」というものがあります。

的中率なんて、気にした事ありません。

1勝9敗だって構いません。回収率がプラスであれば。

そこを理解した上で、本編に進んで下さい。よろしく願い申し上げます。

では馬券術の 核心に入ります！

私は先ほど、この馬券術のキモは「実行力」であると繰り返し言いました。

では具体的に、どんな事を実行すれば良いのでしょうか？
それを明確にします。

基本的に、私の馬券術で実行すべき基本事項は、二つしかありません。

- ①勝負レースでは躊躇なく勝負する
- ②それ以外の局面では、我慢する

非常にシンプルなのですが、基本は本当にこれだけです。

具体的な話は後ほどご紹介致しますが、とにかくこの基本事項二点だけは絶対に守って下さい。どんな時もです。

年間 200%の回収率を達成するために、この二つの基本事項から外れることは、断じて許されません。

「この二点を絶対に守る！」と今ここでお約束下さい。

その覚悟が出来た方には、次章以降にてその具体的戦術をお話します。

ではまず最初に、基本事項①の「勝負レースでは躊躇なく勝負」について説明します。

まず、このレポートの謳い文句である「200%の回収率」について考えてみましょう。

年間の回収率を200%以上にするということは、単純に考えて資金を2倍以上にしなければ、この数字は達成出来ません。

あくまでも、この達成目標は「年間」ですので、一ヶ月単位、一週間単位ではマイナスになることもあります。

それ自体は全く気にしなくて構いません。

要は、一年最後の有馬記念が終わった時に、年初と比較してあなたの資金が倍になっていればいいのです。

レース毎の結果に一喜一憂するのは、あまり意味のない事です。

短期的スパンでの勝ち負けだけで、この馬券術の是非を決められても困りますので、そこはご了承ください。

そしてこの「回収率」という指標は、金額でいくら儲けたという計算では推し量ることは出来ません。

競馬に使える資金は人によって異なるからです。

年間10万円を使える人と、年間500万円を使える人とは、同じ回収率でも獲得金額に差が生じるのは当然の事ですよね。

このレポートを読むあなたが、どれほどの金額を競馬に投資する方なのかはわかりませんが、ここでは話をわかり易くするため、年間100万円と仮定して、説明を続けさせていただきます。

年間100万円ということは、単純に考えれば一ヶ月あたり83000円ほどになりますが、端数は必要経費として考えるとして、一ヶ月80000円の予算とします。すると、一週間あたりでは20000円ですね。

この20000円を、土日の競馬開催でどのように投資するかという事を、あなた

にはまず考えて頂きたいのです。

要は、資金配分についての作戦を、練ってもらいたいということです。

通常、中央競馬では二場所開催が基本ですから土日を合算すると、

12R×2 場所×2 日

で、48R 開催されることになります。

(3 場所開催、3 日間開催などの例外は、ここでは省略します)

使えるお金は 20000 円。

投資対象は 48R。

あなただったら、どのような資金配分を計画しますか？

時間をとって、考えてみて下さい。

いつものあなたは、どういう買い方をしていますか？

(普段、土曜はやらないとか、メインレースしか買わないという方も、ここでは一応考えてみて下さい)

ちなみに、私のレポートではこの例のように、ただ読むだけでなく、実際に頭を使って考えて頂く機会が多いです。

その方が、よりあなたにノウハウが身に付くと考えているからです。

さて、どうでしょう。

いろいろな買い方が考えられますよね。

日曜の重賞のみを購入する方。

土曜はパスし、日曜の朝イチからまんべんなく買う方。

東西のメイン、準メインを厚く買う方。

あなたは、どのような資金配分を計画しましたか？

私が思いつく限りの、最もダメな例をご紹介します。

それは、「購入する全レースに、資金を均等配分する」手法です。

例えば、日曜の中山競馬に朝から出かけて、1R から 12R まで全てのレースに参戦し、予算を 1 レース毎に 2000 円に設定して投資する、というものです。

あの、ハッキリ言いますけど、こんな賭け方してたら絶対に儲かりませんから。

競馬場や WINS に行くと、こういう買い方をしている人達が必ずいます。

毎レース、100 円単位の馬券を握りしめ、やれ勝っただの鼻差で負けただのを繰り返している人達です。

ハッキリ言って、みっともないです。

あなたには心当たり、ありませんか？

これはお遊びではありません

「私は馬が好きで、競馬場に出かけて行き、馬を眺めるのが楽しい。
お金は賭けるけど、別に勝たなくてもいいから、自分の好きな馬を買おう。」

「サラブレッドにはロマンがある。
穏やかな日曜の昼下がり、美しい馬たちが走るのを見ているだけで幸せだ。
馬券はハッキリ言って、オマケみたいなものだ。」

あなたがもしこのようなタイプの方でしたら、その賭け方でも別にいいとは思
います。
個人の趣味の範囲ですから、そこにとやかく意見は申しません。

でもあなたは、競走馬を眺める為に競馬場に通っているのではありませんよね。

「競馬で年間 200%以上の回収率を達成するために」

私のレポートを購入されたのですよね。

だったら、お遊びで馬券を購入している人達と、同じ買い方をしているはず
がありません。

まず、その部分の意識を改めて下さい。実行力が大切になってくる場面です。

全レースに均等配分しなくても、たくさんのレースで勝負をしていたら、結果
としては同じ事です。

「勝負レースと、勝負レースではないレースの区別をつけること。」
これが、私の馬券術の中で、最も大事な戦略の一つになります。

先ほど、「たくさんのレースで勝負をしてはいけない」と言いました。

これ、考えてみれば至極当然の話だと思いませんか？

1日に7レースも8レースも「勝負」しては、1日に1レースしか勝負しないのと比較し、レースの分析に費やす時間も、7分の1とか8分の1になってしまいます。

レースの分析に費やす時間と、的中率は比例すると思って下さい。

まず、勝負するレースを定める事。

これが成功への第一歩になります。

(勝負レースの選択方法については、後ほど解説致します。)

資金を配分について補足説明

次に、資金を配分について補足説明致します。

先ほどの例で言うと、資金を均等配分する方法には感心しません。

例えば、

中山 9R 5000 円

中山 10R 5000 円

中山 11R 5000 円

阪神 11R 5000 円

というような戦略ですね。

いったい、どのレースが勝負レースなのか、全くわかりません。

数多くのレースの中から、4レースに絞ったところまではいいです。

ですが、その配分が良くないのですよね。

「この4レース、どれも全く同じ程度の自信を持っている」

と言い切れるのならこれでもいいですが、実際そんなことは稀なはずです。

勝負レースを決めきれない理由としては、

- ①レース分析に費やす時間が足りないか、分析方法に問題がある
- ②レース数を絞ったり、資金配分を偏らせる事に心理的な恐怖を感じている

このどちらかのケースにあてはまる場合がほとんどです。

①に当てはまるのであれば、まだいいのです。

レース分析については、私がこのレポートの中で徹底的にその方法を伝授します。今現在あなたの分析力に問題があっても、大丈夫です。

大問題なのは、もしあなたが②のケースに当てはまる場合です。

これはマズい。大変にマズいです。

この考え方に少しでも当てはまるのであれば、今この場で修正しないと、あなたが馬券でいい思いをする可能性は、極端に低くなります。

何故かと言うと、この考え方に当てはまってしまうあなたは、競馬を論理的に捉えるのではなく、直感的に捉える習慣が染み付いてしまっているからです。

私は「直感」の全てを否定するわけではありません。しかし、ここでご紹介する馬券術においては、直感の占める割合はごく僅かなもので、大部分はロジカルな裏付けがあつてのものです。

特に、レース数を絞る話とか、馬券や資金配分の戦略の話において、この悪癖は致命的です。

競馬の中でも、ここは特に感覚的要素を排除して、どこまでもどこまでも、理詰めで作戦を立てて欲しい部分なのです。

ここで言う感覚的要素とは、例えば次のような考え方、行動をさします。

ご自分に当てはまる部分がないか、チェックしてみてください。

1点だとなんとなく不安だから、買い目を増やしてみよう。

1レースに絞って、もしそのレースがダメだと今日は全敗だから、保険としてあと2レース、買っておこう。

単勝だと、その馬が鼻差で負けてもハズレだから、二着でも的中になるように、単勝はやめて馬連で5頭に流そう。

などなど、です。

どうですか？心当たり、ありませんか？

人間、長年染み付いた習慣を修正するのは、容易なことではありません。

このレポートを手にしたあなたは、きっと今まで競馬で思う様な成果を出し

て来れなかったはずです。

だから、お金を払ってまで、見ず知らずの他人の馬券術を学ぼうとされているわけですね。

何が言いたいかという、馬券成績向上に対するモチベーションは、一般の人に比べたらずっと高いのではないか？という事です。

モチベーションが高いというのは、いいことです。

だからこそ、その高いモチベーションを、まずはこの悪癖を取り去る作業に使って下さい。

感覚的に馬券を購入するのは、今日でおしまいにしましょう。

感覚的な馬券術、 論理的な馬券術とは？

では具体的に、感覚的な馬券術、論理的な馬券術とはどういうことをさすのか、説明していきます。それをハッキリさせれば、悪癖を取り去り易いと思います。

これは当レポートの商品説明の中でもちょっと触れているのですが、おさらいの意味も含めてもう一度聞いて下さい。

モデルケースとして、フルゲート 18 頭立てのレースを想定します。馬の強さや騎手などの要素はここでは無視し、純粹に馬の頭数のみを考えて下さい。

18 頭の馬の中から 1 頭を選びます。その馬が勝つ確率はどれくらいでしょう？

これは、単勝 1 点買いの確率を求めているのと同じですね。答えは簡単です。18 分の 1、すなわち 5,5%ほどとなります。

これが馬連となると、確率はガクッと落ちます。153 分の 1、およそ 0,65%です。

馬券の中で最も当たりにくい三連単ともなると、その確率たるや 4896 分の 1、約 0,02%にまで落ち込みます。

ものすごく小さい確率だ、という事はわかるでしょうけど、これだけでは、なかなか実践的なイメージが掴みにくいと思います。

ですが、こういう点がまさに「競馬の盲点」の一つでもあるのです。

この例の場合は、競馬の盲点というよりは数字のトリックとでも言った方がいいのかも知れませんが。

とにかく、このような盲点を一つ一つロジカルに解明していくことが、あなたの競馬力向上に直接的につながります。

いくら競馬新聞を熱心に読み込もうが、蛍光ペンでマーキングしまくって研究しようが、基本的な事をはき違えていたらお話にならないのです。

傍目には努力しているようでも、私に言わせれば何もしていないのと同じです。

では、競馬の盲点についてより深く理解して頂く為に、一つ例題を出します。

あまり深く考え込まず、思いついたままパッと答えて下さい。

(18頭立てのレースで、馬や騎手の力量が同じだとして)
次のうち、最も的中率の高い馬券の買い方はどれですか？

- ①単勝 1 点買い
- ②馬連 8 点買い
- ③三連単 250 点買い

制限時間、5 秒以内でよろしくお願いします。

答えは、①の単勝1点買いです。

単勝1点買いの的中率を上回るには、馬連なら9点三連単なら約275点にまで、馬券を増やさなくてはなりません。計算上、そうなります。

ですが、たくさん馬券を購入すれば、それが例え最も当たりにくい三連単であっても、心理的になんとなく安心してしまいませんか？
これだけ買えば、どれかは当たるだろう、みたいな。

あの、ハッキリ言いますけど、そんなわけありませんからね。

理由は、今説明した通りです。数字は嘘をつきません。
計算式を見せて論理的に考えれば、なるほど当たり前の話なのですが。
人間の感覚とは、それくらいアテにならないものだ、と覚えておいて下さい。
ましてや、長年染み付いた習慣を取り去るのは、容易な事ではありません。
しかし、それをやらないと、馬券に強くはならないのです。

あなたの馬券術を よりロジカルなものに

尚、私の勝負馬券は基本的に単勝ですが、必ずしも毎回そうだとは限りません。複勝も買いますし、時には馬連や、三連単を勝負馬券にすることもあります。その説明はもう少し後で行いますので、とりあえずお待ち下さい。

(もちろん単勝だけでも全然構いません。)

その前に、競馬ファンが誤解しがちな「競馬の盲点」を、もういくつかご紹介いたします。

こういった細かい部分をひとつひとつ理解していくことが、あなたの馬券術をよりロジカルなものにしますので、しっかり読んで下さい。

私は23年間一貫して単勝馬券を推奨しておりますが、その理由の最たるものは、今お話した「的中率の高さ」です。

このことは十分ご理解頂けたものと思います。

二つ目の推奨理由としては、「期待値の高さ」を挙げます。

単勝馬券ほど、期待値の高いリーズナブルな馬券はありません。

このように書くと、疑問を感じる方もいらっしゃるでしょう。

単勝は確かに当たり易いけど、期待値なら三連単の方が上でしょ、と。

ところがそうではありません。

もちろん、レースによっては期待値の低いケースもありますが、年間を通して見た場合、圧倒的に期待値が有利なのは単勝馬券です。

その解説をします。

モデルケースとしては、先ほどの 18 頭立てのレースを想定して下さい。

単勝 1 点買いに匹敵する的中確率を保持するには、馬連では 9 点、三連単では約 275 点もの買い目が必要だと言いました。

話をここだけ切り取ると、皆が単勝を買いそうなものですが、現実にはそうではありません。

むしろ逆で、単勝馬券の売り上げは JRA 全体の微々たる割合です。

なぜ、単勝を買わないのか？

WINS にいる、競馬ファンをつかまえて聞いてみて下さい。

多分、皆同じ事を言うのではないのでしょうか。

「単勝は、配当が安いから買わない」

なるほどなるほど。

確かに単勝と三連単では、話にならないくらいオッズが違いますよね。
三連単では万馬券は当たり前ですし、馬連でもそんなに珍しくありません。
単勝で万馬券となると、ちょっとしたニュースですよ。

しかし、ここに盲点があるのです。

便宜上、馬連との比較で話を進めますね。

単勝 1 点買いに匹敵する的中率を馬連で再現すると、馬連 9 点買い。

1 頭の馬の単勝に 9000 円投資するのと、1 頭の馬から 9 頭に 1000 円ずつ、馬連で流すのとでは、的中率という観点では同じです。

ですが、期待値という観点から考えたらどうでしょう？

後でじっくり説明しますが、私の馬券術では単勝 5 倍・10 倍程度の馬を狙うのが基本戦略になります。

18 頭立てレースの単勝 5 倍というと、おそらく 2 番人気あたり。
単勝 10 倍であれば、3 番人気~6 番人気あたりでしょうか？

まあ、何番人気であっても構わないのですが、とにかく 9000 円を投資して的中した場合の配当を考えて下さい。

5 倍の単勝であれば、払い戻し金は 45000 円。
10 倍の単勝であれば、90000 円が受取額です。

これはわかりますよね。

では、この金額を馬連で捻出しようとしたら？

45000 円の配当を得ようとなると、45 倍の馬連馬券の的中、90000 円であれば、90 倍の馬連的中をして、初めて単勝での払戻金と並びます。

ここで考えて欲しいのは、その難易度です。

冷静に考えて下さいね。

- ①5 倍の単勝馬券を 1 点で的中
- ②45 倍の馬連馬券を 9 点で的中

さて、どちらが簡単ですか？

明らかに①の方が、難易度が低くないでしょうか？

単勝 5 倍の馬だと、おそらく 2 番人気あたりでしょう。
2 番人気が勝つレースなんて、珍しくもなんともありません。日常茶飯事です。

それに比べて、45 倍の馬連はどうでしょう？

高配当とまではいかななくても、なかなかの中穴馬券ですよ。

1 番人気から 3 番人気あたりまでの組み合わせでは、まずここまではいきません。

人気薄を絡めるか、上位人気馬を思い切って蹴飛ばすか。

何かしらの冒険をしないと、取れない馬券なのではないでしょうか。

これが単勝 10 倍の馬券となると、傾向は更に顕著になります。

単勝で 10 倍つく馬となると、多分 3 番人気.6 番人気あたりでしょう。

さすがに、2 番人気の単勝をとるのは難易度が異なります。

しかし、それに匹敵する馬連馬券のオッズは、なんと 90 倍です！

90 倍なんて、万馬券寸前の高配当ではありませんか。

もし的中したら、ちょっと人に自慢したくなるような馬券ですよ。

いくら 9 点買いをしたからといって、そうやすやすと取れる馬券ではありません。

そしてこれは重要な盲点のひとつなのですが、競馬に詳しくなればなるほど、取りにくくなる馬券であると言えます。

ちょっと話が逸れますが、競馬には

「詳しくなりすぎると、かえって馬券が当たらなくなる」

という側面があります。

その理由は、馬はどこまでいっても所詮、動物であるということと、ケースによっては、全ての厩舎や騎手が、必ずしも 1 着も目指して出走しているのではないという事情によります。

ハッキリ言えば、二着であれば人気薄が飛び込んできても、全くおかしくありません。

ましてや、三着なんてどんな馬にでも可能性があります。
それが競馬というものです。

実力だけでは着順は決まりません。

最初から優勝は狙わず、 どんな場合でも常に後方待機、 直線だけ追う

同様に、どんな場合でも常に大逃げを打つよう、騎手に指示する。

(明らかに逃げ馬が多くて、超ハイペースが予想されていても)

こういう馬のオーナーには、馬の実力が足りないことから、最初から優勝は諦めているケースが少なくないです。

その代わり、レースが馬のペースにたまたま合致した場合に、上位に残って賞金を稼げるような作戦をとっているのです。

重賞レースともなれば、入着するだけでも結構な金額になりますので、わざわざ強い馬と真っ向勝負をして着外になるより、二着・三着狙いの競馬に徹した方が、お金になる場合も多いのです。

下級条件では、それがより顕著になります。

意図的に優勝はさせず(優勝してしまうとクラスが上がってしまうから)、掲示板に載るような競馬を毎回狙っている厩舎もあります。

(もちろんそんな事は、普通は競馬ファンにはわからない)

競馬の勉強をすればするほど、知識が増えれば増える程、こういう馬は実力不足だと見切ってしまうので、結果として馬券に結びつかない事が多いのです。

「勝ち馬から流したけど、どうやってもあの二着馬は買えないよなあ」
というボヤキが、まさにそれです。

あなたにも、心当たりがあるではありませんか？

私にもあります。

でも、私の馬券術では、その心配はさほど大きくはありません。

何故ならば、単勝中心だからです。

先ほども言いましたけど、二着には人気薄が来てもおかしくありません。
ましてや三着なんて、どんな馬にでも可能性があると言っていいでしょう。

ですが、一着になる馬というのはそうではありません。

明らかに実力が足りない馬、実力があっても調子落ちの馬は、掲示板には来てもなかなか一着には来ないものです。

実力が足りない馬でも、作戦次第では二着、三着は狙えます。
(作戦が噛み合なかった場合は大敗に終わるリスクを覚悟しているから)

しかし、一着となるとそうはいきません。

ですから、必然的に、頭数が絞れます。

徹底的に競馬の勉強をして、レース分析をした結果が、単勝馬券には直結します。
(馬連や三連単には、時として逆効果となる)

私が単勝を推奨する理由は、ここにもあるのです。

単勝馬券は、知識を裏切りませんが、単勝以外の馬券は時として知識が逆効果になる場合があります。

ここで一つ、 良い参考となるレースをご紹介

「単勝以外の馬券は、時として知識が逆効果」

というのは私が作った格言の一つですが、この格言を元にした持論は、私の馬券術の中で度々登場します。

これを具体的事例とリンクさせ、記憶に定着させて欲しいという理由で、ダイワスカーレットが勝った 2008 年の有馬記念を振り返ります。

この年の有馬記念は、安藤騎手のダイワスカーレットが圧勝しましたが、2 着には最低人気のアドマイヤモナーク、3 着にはこれまた人気薄のエアシェイディが飛び込み、馬連・三連単ともに高配当になりました。

本レポートでご紹介する私の馬券術では、このレースは取れません。

取れるとしたらダイワスカーレットの単勝だけですが、この時の最終オッズは 260 円であり、期待値の低さを考慮すると買うべき馬券ではありません。

馬連、三連単はどうかと言うと、これはまず買えない馬券です。

中山に実績のあったエアシェイディはともかく、アドマイヤモナークにはどうやっても手が出せません。

この考えは、競馬を知れば知る程、余計に顕著なものとなります。

私はレース前、7 割程度の確率で、勝つのはダイワスカーレットという予想を立てておりました。

当日の馬体重や、芝状態をチェックしてからも、その考えは揺るぎませんでした。

もしこの時、ダイワスカーレットの単勝オッズが 400 円程度ついていたら、単勝勝負していたかもしれません。

しかし、単勝 260 円に見合う程の自信はありませんでした。

期待値が低いと思いました。

ですが、7割の確率で、勝つのはこの馬だと思っているわけです。

さてこの日、私はどう勝負したでしょうか？

結論は簡単です。

勝負しませんでした。

検討した結果、勝負レースではないと判断したからです。

中央競馬の一年を締めくくる有馬記念と言っても、あくまでも数あるレースの一つに過ぎません。有馬記念であろうがダービーであろうが、勝負レースではないと判断したレースでは、勝負をすべきではないのです。

前述した「実行力」の②の項目で、「我慢する」と私は強調していますが、まさにそれです。

どうですか？イメージ掴めましたか？

我慢が出来ない人には、 年間200%の回収率を 達成することは不可能

G1レースのような大きなレースでは、レースの何日も前から、テレビや新聞で競馬の話題が取り上げられます。特に有馬記念レベルになると、普段競馬に関係のない芸能人までもが登場し、ある種のお祭りのような雰囲気が出て来ます。

すると多くの人は、

「せっかくのお祭りなのだから、参加しなければもったいない。」
という思考に走りがちです。

ですが、本レポートを手にしたあなたは、どうかこの考えから脱却して下さい。

我慢が出来ない人には、年間200%の回収率を達成することは不可能です。

とても大切な事ですから、もう一度言いますよ。

我慢が出来ない人には、年間200%の回収率を達成することは不可能！

その有馬記念を最後に、あなたが競馬から引退するのであれば、自信がなくても大勝負をしてもいいですよ。

でも、そうじゃありませんよね。

次の年も、その次の年も、あなたは競馬を続けるのですよね？

だったら、我慢しましょうよ。

その有馬記念が、地球最後のレースではないのですから。

もっと日常的な例を挙げます。

メインレースを外したあとの最終レースで、アツくなって勝負をしてしまったことはありますか？

どんな馬が出ているかすら知らないダート 500 万下の条件レースに、メインレースと同じ位の金額をつぎ込んだ経験はありますか？

その最終レースで大勝ちした経験など、ほとんど記憶にないはずです。

我慢が出来ない人は、 競馬では勝ち組には入れませ ん

お金を払って私のレポートをお買い上げ頂いたあなたには、どうか競馬の勝ち組に入って欲しいと思っています。

ただ、勝負レース以外のレースは、全く参加してはならない、と言っているではありませんよ。

お金目的ではなく、そのレースを記憶に残すという意味で、少し馬券を買って観戦してみるのには、悪い事ではありません。

前述の有馬記念に話を戻しますと、私は「勝負」はしませんでした、レースに「参加」はしました。記憶に残し、次回以降に役立てるためです。

別に馬券を買わなくても競馬には参加出来ますけど、人間とは不思議なもので、少額でもお金を投資することにより、興味の持ち方が異なってくるものです。

金額としては、勝負レースの1割未満で構いません。
もっと少なくても結構です。

私は現在、勝負レースには数万円単位で投資をしておりますので、それ以外のレースでは数百円から数千円程度を費やしております。

ちなみに私が購入した馬券は、4着に入ったドリームジャーニーの単勝。
金額は2000円です。

レースは戦前の予想通り、ダイワスカーレットの逃げ切り。
私の馬券は外れました。でも、これでいいのです。

単勝馬券には、 まだまだメリットがあります

ここで、控除率の話をしていきましょう。

控除率とは、JRA が予め胴元として得るテラ銭のことで、中央競馬では 25% ということになっています。

一つのレースに投資された勝馬投票券の総額が 1 億円だと仮定すると、JRA はあらかじめ 25% にあたる 2500 万円を手数料として差し引いて、残った 7500 万円を配当金に充当する、という仕組みです。

この控除率というものはおよそどんな博打にも存在します。

例えば宝くじの控除率は 50% ですし、平均的なパチンコ店の控除率は約 3% です。

中央競馬の 25% が高いのか安いのかはわかりませんが、とにかくこのことは知っておかなければなりません。

あらかじめ 25% もピンハネされている世界で、更にその中から勝ち組になるというのは、ちょっと考えただけでも大変です。

ところが、ご存知の方も多いかも知れませんが、単勝馬券の控除率は、25% ではなく、20% なのです。

なぜ馬連や三連単の控除率と、単勝の控除率が違うのかは私にはわかりませんが、とにかく他の馬券に比べ、5% 優遇されています。

これを見逃す手はありません。

「なんだ、たった 5% か」と思ってしまったそのあなた。

あなたはまだ数字のトリックに騙されていますよ。

5%がどれほど大きい数字かが、論理的に理解されていません。
直感だけで物事を推し量ろうとするから、たった5%と思うのです。

何度も言いますが、こういった細かい点をおろそかに（つまり、直感に頼って）
馬券生活を送っているのは、勝ち組になる事は難しいのです。

数字に強くなること。

これは、競馬（というより、ギャンブル全般）において非常に大切なことです。

人間の感覚なんて、いい加減なものであることは説明しました。
ですから、感覚に頼ってはいけません。
あくまでも理屈で物事を捉えて下さい。

年間の競馬の予算が100万円の人であれば、100万円に対する5%は50000円
です。

なるほど、それほどびっくりする金額ではないかも知れません。

ですが、この場合の100万円というのは、一年間、一度たりとも馬券が的中し
なかった時の話です。

実際には、的中する馬券もあるわけですから、その払戻金で新たに馬券を購入
する機会もあるでしょう。

100万円というのは、一年間に購入出来る勝馬投票券の総額ではなく、一年間に
負ける事の出来る許容最大限の金額です。

100万円を使って払い戻しが0円である時、収支はマイナス
100万円ですが、1000万円を使って払い戻しが900万円である場合も、マイナ
ス100万円です。

前者と後者の違いは、同じ100万の負けであっても、後者は前者に比べ、お金

を得る機会を 10 倍持っていたという点です。

結果として、100 万円のマイナスであったため、年間の収支としては一緒ですが、収入を得るチャンスという意味では天と地ほどの差があった事になります。

そして、例えばその全てを単勝馬券で勝負していたとすると、払戻金 900 万円の中の 5%、45 万円は、単勝馬券の控除特典による恩恵を受けているということがわかります。

私が強調したいのは、これでもまだたった 5%と感じますか？
ということです。

単勝は、競馬センスを磨く

単勝関連で、私が作った格言がもう一つありますのでご紹介しますね。

「単勝は、競馬センスを磨く」

というものです。

これは別に、抽象的な話や精神論を唱えたいわけではありません。

例えば単勝ではなく、三連単を購入し、観戦する時の事を考えてみて下さい。

言うまでもなく三連単は、最低でも 3 頭の馬を選ぶわけですから、レース中は購入した 3 頭の走りが気になりますよね。

現実的には三連単の買い目はもっと増えるでしょうから、5 頭から 6 頭、ないしはそれ以上の馬のレース運びに眼がいくはずですよ。

それに対し、単勝購入時に見ている馬は、基本的に 1 頭です。

どちらが、自分が賭けた馬の記憶が残り易いでしょうか？

言うまでもなく後者ですよ。

自分がレース前夜から、考えて考えて考え抜いた末に選んだ一頭が、果たしてどんなレースをするのか。

スタートで出遅れはなかったか。

コース取りはどうだったか。

レース中、不利はあったか。

直線に出した時、前が詰まるような展開にはならなかったか。

ペース配分は？

など、実にいろいろな事が見えて来ます。

こうして自分の眼で見た馬の記憶とは、なかなか色褪せないものです。

新聞の紙面だけ眺めていてもなかなか伝わらない、細かいニュアンスや馬の癖、得意不得意などが映像として脳にインプットされます。

そしてそれは、次回の馬券検討に、大きなアドバンテージをもたらすのです。

「競馬は記憶のスポーツ」とは言いますが、まさにその通りだと思います。

単勝を買って観戦するだけで、享受出来るメリットは計り知れません。

それが、三連単の場合はどうでしょう？

「⑨頑張れ、⑦頑張れ、豊来い、ルメール逃げろ、岩田はいらない！」

「③が来た、いいぞ、③差せ！え、でも⑤は買ってないよな、⑤は？」

「よし、蝦名が来た！二着も買ってる！あれ、でも三着の馬はどうだ？」

あの、これで馬の記憶が残るのであれば、それはスゴイことですよ（笑）

競馬に強くなるには、単勝を買ってレースをじっくり観戦すること。

その記憶を、忘れない努力をすること。

これが非常に大切です。

得たレースの記憶を、自分なりに忘れないように記録しておく、更にいいでしょう。私は競馬の血統書を毎年一冊購入（後ほど詳述）しておりますが、そこに直接情報を書き込んで、財産としています。

前述の例で言うと、私は2008年の有馬記念は勝負をせずに、観戦に徹しました。

その結果、

「ドリームジャーニーは、東京コースよりも中山コースに適性がある」

「右回りの方がレース運びがスムーズ」

「ステイゴールド産駒は2500mでも通用する」

「有馬記念は、天皇賞と JC を連戦して来た馬よりも、どちらか一方のみを使った馬の方が余力があるのでは」

などと言った、実践的な情報を得る事が出来ました。

この結果を応用し、翌 2009 年には、

産経大阪杯

天皇賞春

宝塚記念

有馬記念

の 4 つのレースで、同馬の単勝を購入。

天皇賞春こそ 3 着に破れましたが、他の 3 つのレースでは単勝を的中させる事に成功しました。

「単勝は、競馬センスを磨く」

というのは、こういう事です。

他の馬券では、こうはいかないものです。

単勝馬券のメリット、 おわかりいただけましたか？

ここまで読んで頂いたあなたには、競馬における単勝馬券のメリットが、十分に伝わったのではないかと思います。

逆に言うと、私がこれほどまでに単勝の素晴らしさを強調しても、頑として自分の買い方を曲げようとしなない（つまり、単勝は買わない）のであれば、この先を読んで頂いても意味がありません。

ですので、ここでこのレポートを屑かごに捨ててしまっても結構です。

「次回の競馬開催日より、私は単勝党になる！」

と心に誓ったあなたには、今から具体的な単勝馬券の購入法について、私の全てのノウハウを伝授します。

レポートの今までの部分は、どちらかと言えば具体的な戦術ではなく、あなたの競馬に対する根底意識を変えてもらおうという観点で、筆を走らせていました。

これ以降、具体的な馬券の絞り込み方法、使用する予想要素などについて、徹底的に掘り下げていきます。

勝負レースでは 躊躇なく勝負する

その前に一言だけ、確認させて下さいね。

このレポートの冒頭で、私は何が最も大切だと言いましたか？

そうですね、**実行力**です。

「勝負レースでは躊躇なく勝負する」実行力と、「それ以外は、我慢する」実行力です。

我慢するのも、実行力のうちですからね！

それではまず、

「勝負レースでは躊躇なく勝負する」
話について解説します。

躊躇なく勝負する、という意味は、「これが勝負レースだ」と判断したレースでは、掛け金を思い切ってUPするということです。

具体的にいくら賭けろ、という話ではなく、「勝負レースではないレース」と、「勝負レース」では、掛け金に明確な差をつけろ、という意味です。

勝負レースではないレースに 4000 円、勝負レースには 6000 円、というレベルではダメですよ。

明確な基準こそありませんけど、あなたの予算が例えば 10000 円なのであれば、

勝負レースではないレース……1000 円

勝負レース……9000 円

というイメージです。

細かい配分はおまかせしますが、おおまかにはこんな感じです。ちなみに私は、

勝負レースではないレース……1000 円から 3000 円

勝負レース……20000 円から 50000 円

としています。参考までに。

勝負レースとは一体どのようなレースをさすのか？

このセクションは本レポートのキモの一つとも言える部分なのですが、私がいきなり結論を言うよりも、いくつか例を出しますから、あなたなりに少し考えて、共通点を見つけてみて下さい。

古いレースから比較的最近のレースまで、いくつかサンプルをご用意しましたから、レポートの先を読むのを一旦中止し、考えてみて下さい。

題材は中央競馬の重賞レースに限定していますので、古いレースであっても、パソコンを開けばいくらでもデータはあります。

JRA のホームページがわかり易いかも知れません。

過去のレースも、レース名を入れればすぐ検索出来ます。

そしてご自分なりに、「もしかして、こういう事か？」というアイデアが出た時点で、先を読んでみて下さい。

あの、一応言っておきますけど、ろくすっぽ考えもしないうちに答えを見るような事は、絶対しないで下さいね。

ちょっと厳しい言い方をしますが、自分の頭で考えようとしらない人は、いつまでたっても競馬に強くなりませんよ！

では、題材を発表します。

本来なら、当時の新聞や出馬表を載せて考えて頂くと実力がつくのですが、なかなかそこまで時間は取れないでしょうから、レース名と結果のみを。

なるべく誰にでもわかるよう、サンプルレースは G1 レースのみに絞ってみました。

レース名を検索エンジンに入力するだけで、多くの情報が入手出来ますので、

出来ればそこまでして頂くと、より効果的に競馬の実力が上がります。

特に注目して欲しいところは、サンプルレースに共通するある法則を見つけることと、私が優勝した馬の単勝を購入した理由です。

それでは、どうぞ。

【サンプルレース A】 1992 年 菊花賞

- ①ライスシャワー (牡・457kg) 的場均 2 番人気 (730 円)
- ②ミホノブルボン (牡・457kg) 小島貞洋 1 番人気
- ③マチカネタンホイザ (牡・457kg) 岡部幸雄 3 番人気

【サンプルレース B】 1996 年 天皇賞春

- ①サクラローレル (牡・658kg) 横山典弘 3 番人気 (1450 円)
- ②ナリタブライアン (牡・658kg) 南井克巳 1 番人気
- ③ホッカイルソー (牡・558kg) 蝦名正義 4 番人気

【サンプルレース C】 2001 年 ジャパンカップ

- ①ジャングルポケット (牡・355kg) ペリエ 2 番人気 (420 円)
- ②テイエムオペラオー (牡・557kg) 和田竜二 1 番人気
- ③ナリタトップロード (牡・557kg) 渡辺薫彦 5 番人気

【サンプルレース D】 2002 年 有馬記念

- ①シンボリクリスエス (牡・355kg) ペリエ 2 番人気 (370 円)
- ②タップダンスシチー (牡・557kg) 佐藤哲三 13 番人気
- ③コイントス (牡・457kg) 岡部幸雄 8 番人気
(1 番人気ファインモーション・牝・353kg・武豊 5 着)

【サンプルレース E】 2003 年 天皇賞春

- ①ヒシミラクル (牡・458kg) 角田晃一 7 番人気 (1610 円)
- ②サンライズジェガー (牡・558kg) 後藤浩輝 8 番人気
- ③ダイタクバートラム (牡・558kg) 武豊 1 番人気

【サンプルレース F】 2008 年 ジャパンカップダート

- ①カネヒキリ（牡・657kg）ルメール 4 番人気（980 円）
- ②メイショウトウコン（牡・657kg）藤田伸二 7 番人気
- ③ヴァーミリアン（牡・657kg）岩田康誠 1 番人気

【サンプルレース G】 2009 年 有馬記念

- ①ドリームジャーニー（牡・557kg）池添謙一 2 番人気（400 円）
- ②ブエナビスタ（牝・353kg）横山典弘 1 番人気
- ③エアシェイディ（牡・857kg）後藤浩輝 11 番人気

【サンプルレース H】 2010 年 有馬記念

- ①ヴィクトワールピサ（牡・355kg）デムーロ 2 番人気（840 円）
- ②ブエナビスタ（牝・455kg）スミヨン 1 番人気
- ③トウザグロリー（牡・355kg）ウィリアムズ 14 番人気

もちろん、まだまだ該当レースはたくさんありますが、キリがないのでこの辺で。

レースを列記する事が目的ではなく、勝負レースの見極め方をあなたにマスターしてもらうことが目的ですからね。

で、どうでしたか？

私が「勝負レース」と定義しているレースに共通する点、わかりましたか？

ズバリそれは「危険な一番人気馬が出ているレース」なんですね。

何もレース当日じゃなくても新聞やネットで、それは何日も前からわかる場合が多いです。

特別競争以上のグレードのレースでは、出走メンバーはあらかじめかなり確定していますから、その中で人気を集めそうな馬の中で「危険な人気馬はいないかな？」と探すことから、私の馬券術はスタートします。

危険な人気馬が一番人気になりそうであれば、そのレースが対象レースとなります。

その手法について、詳しくお話ししますね。

【法則 1】 知識がないうちは、 重賞レースで勝負せよ

まず、基本的な戦略として私は、重賞レースを中心に勝負レースを設定することが多いです。

理由は、普通のレースと比較して、情報量が圧倒的に多いからです。情報量と分析の精度は比例関係にありますからね。

このレポートを読んでいるあなたが、普段どれくらいの時間を競馬の研究に費やせるのかはわかりませんが、サラリーマンであればその時間は限られていますよね。

サラリーマンじゃなくても、何らかの仕事をされている（と思う）でしょうから、必然的に限られた時間の中で予想をすることになります。

それであれば、効率的に情報を収集しやすい大レースに限る方が、いろいろなレースに手を出すよりも遥かに勝率が高まります。

出走する馬がどんな馬か全くわからない新馬戦を勝負レースにするより、馴染みのある騎手が、有名な競走馬に騎乗する重賞レースの方が、お金を賭けるのにふさわしいと思いませんか？

もちろん、あなたに競馬の知識が十分にあり、未勝利戦であろうが下位条件のレースであろうが、馬の特徴が頭に入っているというのであれば、重賞ではないレースを勝負レースに選んでも構いませんよ。

要は、知識量の問題です。

それほど知識がないと自覚しているあなたは、とりあえずは重賞のみに絞ってみてください。

知識量さえあれば、基本的にどんなレースを勝負レースに選ぼうと、それは自由です。長く競馬を続けている方は、重賞よりも新馬戦の方が得意、という方もいるかもしれません。それはそれで尊重します。

ですが、私からアドバイスをさせて頂くと、あまり Recommend 出来ないレースもいろいろあります。

この馬券術に慣れないうちは、とりあえず次のレースを勝負レースにするのは避けて下さい。

未勝利戦

新馬戦

障害戦

極端な不良馬場でのレース

ローカル競馬での重賞以外のレース

オープン特別や G3 のハンデ戦（特に、牝馬限定）

正月競馬

夏競馬（札幌記念など、格のある重賞は除く）

いわゆる、「取りにくい」レースがこれに該当します。

情報の絶対量が少ないこと、紛れが多くて予想に不確定要素が入りすぎる事、陣営によってやる気に紛れが多いレースであること、などが原因です。

競馬の知識が裏目に出易いレースでもあるのです。

勝負レースには向かないと思っています。

逆に、オススメ出来るレースは次のようなレースです。

G1 レース（特に、天皇賞春、オークス、ダービー、宝塚記念、スプリンターズ
S、天皇賞秋、菊花賞、マイル C、有馬記念）

G2 レース（別定戦がベスト。毎日王冠、AJCC など。）

G3 レース（ハンデ戦でもいいが、牡馬が多いレースの方が良い）

その競馬場での開幕戦（但し、芝の状態が絶好であること）
降級馬が出走している夏競馬。

【法則 2】 オッズは参考程度、明確な 根拠を持って一番人気馬を切れ

一番人気馬のオッズをチェックして下さい。

(注：正確なオッズでなくて構いません。前日のオッズでも十分です。)

厳密にこの位のオッズ、というのは状況によるので一概には言えないのですが、140 円から 250 円位の幅に収まる馬が、経験的によると一番の狙い目です。

140 円を下回るオッズの馬は本当に死角がない場合が多く、危険な一番人気馬にはならない可能性が高いです。

逆に、250 円を上回るような馬ですと、一番人気の割にオッズが高いので、切ったところでそれほど旨味がなくなる可能性があります。

もちろんこれは絶対的な法則ではありません。

レースや頭数によって変わって来ます。

300 円台の馬や、110 円の馬もターゲットになります。

(110 円の馬を切れたら、それは相当狙い目なレースとなるでしょう)

要は、実力の割に買われすぎている一番人気馬を切り、実力の割に人気のない馬の単勝を買う、というのが基本戦略なのです。

オッズの話をしておいてなんですが、オッズは参考程度に考えて下さい。

それよりも、明確な根拠を持って、一番人気馬を切る事。これが大切です。

人に聞かれた時に「いや、なんとなくそう思ったから」では、ダメです。

【法則 3】 一流騎手か、お手馬騎手でしか 勝負してはならない

はじめに言っておきますが、これは重賞レースに限っての事です。
あなたが未勝利戦を勝負レースにするのであれば、このルールは無視して下さい。

重賞競争では、通常のレースとは比較にならないプレッシャーが、騎手には降り掛かります。

特にそれが G1 レースともなれば、その重圧たるや相当なものです。

競馬は「馬 7、騎手 3」と言いますが、これは普通のレースでの話だと思って下さい。

レースの各が上がれば上がるほど、またレースの距離が伸びれば伸びるほど、この割合は騎手側にふれていきます。

ダービーや天皇賞春ともなると、「馬 4、騎手 6」くらいなのは、と私は考えているほどです。

ベテランの競馬ファンでも、意外な程このことがわかっていません。

勝負レースと判断したレースで、あなたが購入する馬の騎手が聞いたこともないジョッキーであれば、その馬券は購入すべきではありません。

同様に、一流ジョッキーが落馬負傷のために乗り代わった、なんていう場合も、購入を見合わせる方がベターです。

ここは「実行力」の中の、「我慢する実行力」を発揮する場面です。

そう。競馬はまず、騎手である程度絞れるのです。

但し、それは重賞レース（出来ればG1）に限ってのことです。

下級条件のレースであれば、去年競馬学校を卒業したばかりの若手騎手でも、年間10勝も出来ない様な騎手でも、なんでもありです。

ですから騎手で勝負をかけることが出来ません。

重賞であれば、レースの格が上がれば上がるほど、騎手で絞れるのです。

というより、まず騎手ありきでいいのではないか？

と思える程、G1レースの勝者は一流騎手の持ち回りとなっています。

のちほど、2014年現在で私が考える「買える騎手」の一覧をご紹介します。

参考にして下さい。

というよりは、この騎手以外では勝負しないで欲しいです。

それくらい、完成度の高いものです。

但し、騎手にも流行り廃りがあり、復活があり、時代遅れがあります。

落馬事故で負傷をしたりすると、顕著です。

このレポートを書いている時点では、去年あたりから武豊騎手が見違える程の復活を遂げています。反対に、顕著に勝てなくなったのは四位騎手、藤田騎手あたりです。

時が経つごとに、いろいろな変化があると思います。

2014年以降にこのレポートを手にした方は、その辺を修正しながら使用して下さいね。

あとそれから一言説明を加えますが「お手馬騎手」というのは、一流騎手ではないにせよ、その馬にずっと乗り続けている騎手をいいます。

当然、その馬の長所短所、性格などを知り尽くしているので、この場合は一流

とは言えない騎手でも、勝負できると言っていていいでしょう。

調教にお手馬騎手が乗りに来て、直接稽古をつけている場合は、信頼度は飛躍的にUPします。

例えば、オルフェーブルやデュランダル、スイープトウショウ、ドリームジャーニーに乗り続けた池添謙一騎手がそうです。

(余談ですが、池添騎手って騎乗馬に恵まれてますよね)

他には、ニホンピロアワーズの酒井騎手、スリープレスナイトの上村騎手、テイムオペラオーの和田騎手あたりがそうです。

逆に言うと、今挙げた騎手を、私は一流だと思っていないということです。

では、2014年現在、勝負出来る騎手の一覧をご紹介します。

【S】 ルメール、ムーア、M デムーロ、C デムーロ、ウィリアムズ、ベリー、スミヨン、デットーリ、武豊、岩田康誠、戸崎圭太

【A】 内田博幸、横山典弘、蝦名正義、福永祐一、S ランク以外の外国人騎手

G1で私が勝負するとしたら、ここまでですね。

特に、外国人騎手はすごい。

彼らは日本に「本気で稼ぎに来ている」ので、どんなに人気薄でも、一つでも順位をあげようと躍起になって騎乗してきます。

日本国内での面倒な上下関係、派閥もありませんので、思い切った騎乗が出来るというのが、勝率を後押ししているのでしょう。

格落ちのG1や、それ以外の重賞であれば、

【B】 浜中俊、田辺裕信、川田将雅

【-B】

北村宏司、幸英明、石橋脩、柴田大知、池添謙一、松岡正海、小牧太

うーん、何も条件を付けないとなると、このあたりまででしょうか。

参考までに、幾つか条件を付けた上で、勝負してもいい騎手を列記します。
(今挙げた騎手についても、参考情報を付与します。)

S・A ランクの騎手については、どんな場面でも基本的には信頼していいと思います。特に、大レースでの信頼度は高いです。

それ以外の騎手では、

浜中俊……小倉での実績が際立ちます。

田辺裕信……この原稿を書いている時点で、私が最も注目している伸び盛り。

柴田大知……2013年に遅咲きのブレイクですが、後が続くかは慎重に判断を。

池添謙一……関西圏以外では、極端に成績が落ちるので注意。

松岡正海……もしかしたら、何かしらトラブルがあったか？勢いが落ちてます。

小牧太……地方騎手は上手な印象ありますが、戸崎、内田とはレベルが違う。

柴田善臣……重賞での信頼性は低い、追えない騎手。重賞以外では買えます。

後藤浩輝……しばらく静観でいいと思います。

三浦皇成……重賞では買いにくい。

田中勝春……準メインまででいいと思います。

秋山真一郎……札幌、函館では要注意。それ以外は軽視。

藤岡康太……京都で穴をあけることがあるので注意。

B ランク以下の騎手に関しては、こんなところでしょうか。

今名前が出なかった騎手に関しては、単勝からは外して考えていいと思います。

有名どころでは、藤田伸二、四位洋文、中舘英二あたりです。

【法則 4】 馬体重は、その馬の知識が ないと意味がない

世の中に出回っている競馬必勝本の多くは「当日の馬体重の増減」を重要視しているものが少なくないようです。

理屈を読むと、確かにその通りである気になります。

私も、ある程度は賛成です。

ですが、そんなに神経質にチェックする必要は、ありません。

というより、馬体重を勝ち馬選択の指針にするなら、あらかじめその馬の理想的な体重や「これくらい絞れていて欲しい」という数字を持っておかなければダメです。

当日、あなたの本名馬がプラス 10kg で、パドックに現れたとしましょう。

このプラス 10kg という数字を見て「太い」と思うのか、「これくらいでいい」と判断するのは、その馬のそれまでの過去の記録を知らない事には、判断出来ませんよね。

何の前知識もなく、数字だけみて「絞れていないから、本命を変える」というのは危険な事です。

そんなことをするくらいなら、馬体重など見ない方がいいです。

プラス 10kg ではなく、プラス 20kg だったとしても同じことですよ。

その体重増が、成長分なのか絞れていないのかは、数字だけでは判断出来ません。三歳馬が休み明けにプラス 20kg で出てくると、9歳馬がプラス 20kg で出てくるのでは、全く意味が違いますよね。

馬体重って、一筋縄ではいかないんですよ。
勉強が必要です。

少なくとも、その馬の過去の体重の推移（ネットで簡単に調べられます）何キロで好走しているか、休み明けは走る馬か、走らない馬か（休み明けに好走する馬であれば、馬体重はあまり見ない方がいいです）何歳馬か。プラス体重は、成長分なのか、贅肉なのか。

少なくともその程度の知識を、前もって仕入れていないと、当日パドックの数字に飛びつく、という愚を犯しがちです。

馬体重は、その馬の知識を持っていないと、意味がありません。

いっそのこと、馬体重を見ない、という方法もアリだと思います。
それくらいのもんです。

【法則5】 解説者のコメントほど意味のないものはない

テレビに出ている競馬評論家が、したり顔で解説しますね。

「うーん、いつもと比べてテンションが高めですねえ」

「周回の際の、後脚の出が良くないですね」

「発汗が目立ちますし、好調時には今一步というところでしょうか」

などなど。

それを聞いている我々は、競馬のプロの言うことだからと、何となく信用出来る気になってしまいがちです。

レース前日から、考えに考え抜いて決めた本命馬を買う寸前に、

「あー、明らかに太め残りですね。いつもと比べ、元気もありません。」

などというコメントを聞いて、つい本命を変えてしまった経験、あなたにはありませんか。

そして結果は、太め残りで元気がないはずの馬が快勝。

あなたは苦虫をかみつぶしたような顔をして、競馬場を立ち去る、と。

あの、言っておきますけど、解説者はプロでもなんでもありませんからね。

解説者やコメンテーターはプロではなく、競馬関連の仕事をしている人、です。馬についてコメントをするのが仕事です。

ですから、その馬について何の感想を持っていなくても、何か言わないと仕事にならないんですよ。

「はい、えーと、特に何もコメントはありません。」

では、お金を貰えないのです。仕事でやっているのです。(これも、競馬の盲点

と言えば盲点なんではないか)

私から言わせれば、彼らの言葉を真に受ける方がどうかしています。

あなたには、WINS の片隅で短波ラジオにイヤホンを差し「パドック解説者のイチオシ予想」とか、「返し馬で最も良く見えた馬」の情報を聞いて、マークカードを塗りつぶした経験はありませんか。

当たるとか当たらないとか以前に、カッコ悪いですよ、そもそも。
もっとロジカルに、知的に馬券は購入して下さい！

【法則 6】 パドックなんて見ても無駄

G1 ともなると、有名タレントのライブでもあるかのごとく、パドックの前は鈴なりです。

ダービーとか有馬記念だと、準メインをパスして場所取りをしないと、馬そのものを見る事が出来ないほどの混雑も珍しくありません。

パドックに行くのが「一度、ディープインパクトを近くで見たい！」とか、そういう理由であればいいですよ。是非お出かけ下さい。

ですが、パドックで馬の状態を観察し、馬券検討に活用しようと思って足を運んでいるのであれば、そんな事は今すぐ止めて下さい。

全国の競馬ファンや、専門家から非難を浴びる覚悟で言いますが、

パドックなんて、見ても無駄です。

なぜ無駄かというと、馬の体調は連続性を持って見ないと判断出来ないからです。

あなたが四六時中、担当馬と一緒に過ごしている厩務員であるとか、毎日トレセンに詰めている調教師であれば、ちょっとした体調の変化にも気がつくでしょうし、調子の善し悪しは判断出来ると思います。

しょっちゅう稽古をつけている、調教助手とかであれば、一見健康そうに見える馬の、隠れた不調なども見分けられるでしょう。

でも、あなたは毎回ほぼ初めて、その馬を直に見るわけですよ。

例えば、あなたの本命馬が、パドックでやけに覇気がなく見えたとしましょう。

でももしかしたら、その馬はいつもそうなのかも知れません。

もしくは逆に、やけにテンションが高くて落ち着かない、という印象を持った
としましょう。

ですがその馬は、普段から常にハイテンションなのかも知れません。

そういう事は、日頃からその馬に接していないと判断出来ない事です。
その馬の「いつもの状態」を知らないのに、パドックでの一場面を切り取って
調子を判断するなんて、極めて非合理的ですし、ナンセンスです。

そもそも、(私も含めてですが) 部外者に馬の調子なんて、見ただけじゃ判断出
来ないと思いますよ。

馬の背中から、名前が書かれているゼッケンを取り外したら、それが何という
馬なのか、わからないでしょう？

そのレベルの人間が、馬のコンディションなんてわかるのでしょうか？

パドックは、見るだけ無駄です。

【法則 7】 厩舎コメントは、 具体的な事実だけを読め

競馬の神様と言われた故大川啓次郎氏曰く、
「新聞の厩舎コメントなど、刺身のつまほどの価値もない」
だそうです。私も基本的には賛成です。

これって、同じ新聞を読んでいるとよくわかりますよ。

よくある例を挙げましょう。

レース前

「ダートを使い続けて来たが、芝でも十分適性があると判断し、ここを使う。
メンバーの中では格上だし、勝負になると思うよ。」

レース後

「やっぱりこの馬には芝は合わない。仕方ないよ。」

おいおい、何だよこれ。

こんな無責任な事、発言していいのかよ。

こっちはお前のコメント見て、馬券買ったんだぞ。

そう、毒づきたくなりますよね。

ですが、厩舎コメントなんて、こんなもんなんですよ。

インタビューを受けている方も、する方も、仕事。

仕事でやっているのです。

何か書かないと、紙面が埋まらないわけですからね。

書く事がなくても何かしら書かないといけないのです。

何かを書かなければならないといっても、その内容はレースに関係したものでなければなりません。

それに加え、あまり断定的な記事を書く訳にはいかないのです。

例えば、

「100%の状態だ。落馬でもしない限り勝てる。」

とか、また逆に

「今回はメンバーが強い。まず勝てないだろう。」

とか。

言い切ってしまうと、そこに責任が生じてしまいかねません。

そういう事情があるので、何となく曖昧な、ぼかした表現を多用するのです。どっちともとれるような。

例えば、

「今回は勝負になる」(勝つか負けるか、とは言っていない)

「左回りは走る」(走る、なのであって、勝るとまでは言っていない)

「休み明けだし、割引が必要」(だからといって勝てないとは言っていない)

などなど。他にもいくらでもありそうですね。

大川啓次郎さんではありませんが、こんな記事に読む価値など全くありません。読む意味ゼロです。

というより、予想に乱れが入る分、マイナスの効果しかもたらしません。

厩舎コメントは、具体的な情報以外は読飛ばしてしまっても構いません。

具体的情報とは、例えば次のようなものをいいます。

「他の馬を怖がっているようなので、今回からブリンカーを使う。」

とか、

「今週はずっと内田騎手に調教してもらっている。」

などなど。

新聞を隅々まで読まないで見逃してしまいそうな情報が、時々厩舎コメントには書かれています。

例えば初ブリンカーの馬はかなり注目すべきなのですが新聞には「B」と小さく書かれているだけですからね。

見逃してしまう公算大です。

同様に、騎乗するジョッキーが直接調教をつけるというのは、厩舎が本気で仕上げにかかっている証拠なのですが、何となく紙面を眺めているだけでは、わからない事が多いです。

厩舎コメントは、具体的情報をピックアップするために読んで下さい。

具体的な情報が出ている馬は、その厩舎が勝負気配である場合が多いです。

【法則 8】 血統書を一冊用意せよ

先ほど少し触れましたが、私の馬券術では血統を割と重視します。サラブレッドの血統というものはなかなか奥が深いものですので、一冊が良いですから、しっかりとした参考書を用意しておく必要があります。なかなか、覚えられるものではありませんから。どの本にしなければならぬということはないです。書店で、ご自分のフィーリングに合ったものを探して下さい。

参考までに私は「田端到、加藤栄の種牡馬辞典」（東邦出版）という本を利用しています。

血統書というものは、毎年決まった時期にリニューアルされますので、常に最新のを準備しておくようにして下さい。血統にも流行り廃りがありますので、古い血統書はあまり意味がありません。

一つ注意点があります。

予想に血統を使用するのは、私の馬券術の基本戦略ですが、下位条件のレースではあまり当てはまりませんので、少なくとも準メイン以上、出来れば重賞に限っての使用をお願いします。

早い話が、例えば未勝利戦であれば、何が来てもおかしくないということです。

ダート 500 万下の競争に、血統など、関係ないと思って頂いて構いません。

ですが、重賞ともなると話は違います。
特に血統が重要となるのは、

3歳クラシック戦線

2歳戦

長距離戦

重馬場

などでしょう。

古馬のレースでは、予想に血統が占める割合は、少し小さくなります。

具体例を出しましょう。

グランプリボスという馬がいます。

マイルのG1を2つ勝ち、安田記念でも2着に好走している強豪です。
しかし、これがなんとサクラバクシンオー産駒。

ご存知ない方もいらっしゃるかも知れませんが、サクラバクシンオーとはスプリンターズSを二度制した、日本競馬史上に残る快速スプリンターです。

成績が偏っているのが特徴で、1200mでは8戦7勝。1400mでは4戦4勝。
ところが1600m以上では9戦0勝です。

実にわかり易い短距離走者ですよ。

当然、産駒も短距離レースで活躍する馬ばかり。

カノヤザクラ、ダッシュヤーゴーゴー、ショウナンキャンプ、サンダルフォン、スギノエンデバー、エーシンホワイトィ、ヘッドライナー。

どれもこれも、1200mで活躍する馬ばかりですね。

ところがグランプリボスは、マイル戦を得意としているのです。

これは、血統からはわかりません。

朝日フューチャリティを勝った時は 2 歳ですから、当然血統からは買える馬ではなく、私もこのマイルのレースを落としました。

しかし、毎回レースを見て行くうちに、
「この馬は、サクラバクシンオー産駒という枠組みの中で考えない方がいい」という事に気がついていくわけです。

こういう生きたデータが溜まった状態で勝負出来るのが、古馬重賞のいいところですよ。

データが少ないため、ある程度血統で判断するしかないクラシックなどとは、根本的に考え方を変えた方が、馬券に直結します。

2013 年の読売マイラーズ C の単勝 930 円は、おいしかったですね。

2 歳戦、3 歳戦では、こうはいきません。

繰り返しになりますが、データが少ない為に、血統に頼らざるを得ない部分が多いからです。

もちろん、血統だけが全てではありません。

血統からは考えにくい好走をする馬（グランプリボスのように）だって、いくらでもあります。

ですが、まずは基本を抑えた上で、応用を考えるようにしないと、競馬力は向上しません。ここでいう基本とは、代表的な種牡馬の特徴を頭に叩き込む、ということです。

血統書を紐解くと、それこそ数百頭にも及ぶ種牡馬のデータが出て来ます。それを全て記憶せよ、とまでは言いませんが、少なくとも大レースに出てくる種牡馬の特徴くらいは言えるようになって欲しいですね。

もちろん最初からそれは無理ですし、流行り廃りはありますから、最新の血統書を手元に置いておくことは、とても重要なことです。

血統が全てではありませんが、抑えておくべき基本は存在します。

例えば、牝馬として 64 年ぶりにダービーを制したウォッカ。

この馬を歴代最強牝馬に挙げる声も少なくありませんし、事実、私も相当に強い馬であると認めます。

ですが、ウォッカの良績って、東京に偏っているという事をご存知ですか？
ダービー、天皇賞秋、ジャパンカップなど、府中では鬼の様な強さを見せますが、他の競馬場ではそうでもありません。

実はこれ、父タニノギムレットの特徴そのままなんです。

ウォッカのライバルとして時代を駆け抜けたダイワスカーレットの父は、アグネスタキオン。

足元にもろさがある馬が多いという欠点がありますが、若い時期を中心に、割とどこのコースでも良績を残します。

東京と新潟に実績が集中しているタニノギムレットとは、対照的な種牡馬です。

ウォッカとダイワスカーレット。

ライバル同士と言われたこの 2 頭は、ウォッカの方が勝ち方こそ派手ですが、万能性という意味ではダイワスカーレットに軍配が上がります。

何が言いたいのかというと、血統を丸ごと無視して重賞を取ろうとするのは、とてもナンセンスだという事です。

基本はウォッカ。グランプリボスは、あくまでも応用、と覚えて下さい。

基本から生まれる応用はありますが、応用から生まれる基本はありません。

皐月賞でタニノギムレット産駒にぶち込むとか、G1 レースを、8 歳馬のアグネスタキオン産駒で勝負するとか。

そういう事をやっている間は、競馬には強くなれませんよ。

【法則9】 馬券の買い方を極めよ

競馬の実力が中級以上の方なら、この言葉にピンとくるものがあると思います。

突き詰めて言えば「競馬というものは、馬券の買い方が難しい」と言えます。

この原稿を執筆している現在で、JRAには9種類の馬券が存在します。
単勝、複勝、枠連、ワイド、馬連、馬単、三連複、三連単、WIN5です。

このレポートをお読みの方は、普段どんな馬券を買われていますか？
馬連とか、三連単で勝負されている方が多いのではないのでしょうか。

何度も言いますが、このレポートを読み終えた頃には、是非とも単勝党に鞍替えして頂きたいと思っております。
理由は既に説明している通りです。

ですが、競馬にはどうしても、単勝一点勝負ではうまくいかないレースも存在します。そんな時のための方法を、ご紹介しましょう。

ハッキリ言って、この章を読むだけで、レポートの代金は元が取れます。
それほど実践的な内容です。

あなたが本レポートの内容を全て身に付けたと仮定して、次の週末にレースに望むというイメージを持って下さい。

さて、いつものように競馬新聞を購入し、ビール片手に予想を始めました。

今週はG1レースがあります。

とても楽しみです。こここのところ負け続けているあなたは、今週こそは！と意気揚々です。

予想をすること一時間、二時間。

うーむ。どうしても本命が絞れません。
単勝候補が4点程あり、どうしてもそこから先が決まりません。
うん、競馬をやっているならば、確かにそんなこともありますよね。

さて、ここで問題です。

こんな時は、どのように勝負すればいいのでしょうか？
少し考えてみて下さい。
ヒントは今までのレポート部分に書いてあります。

正解は「このレースでは、勝負しない」というものです。
身も蓋もない答えのようですが、これが正解中の正解です。

私の馬券術の中で最も大事な事は、「実行力」。
「勝負をしない」というのも、立派な実行力の一つです。

株式相場の格言に「休むも相場」という金言がありますが、それと全く同じです。

全くの観戦レースに指定しまうのもよし。
1000 円程買って、参加レースにするのもよし。
とにかく、勝負レースにしないことが大切です。

ハッキリ言ってこれが大正解なのですが、それでもどうしてもこのレースで勝負したいとか、全く手を出せない程に自信がないというわけではないという場合もあるでしょう。

ですが単勝一点には絞れない。
ではそんな時はどうするか？

現実的にはそういうレースは多いと思います。

私の馬券術のキモとなる部分でもありますので、しっかり勉強して身につけて下さい。

モデルレースとして、以下の様な競争をイメージして下さい。

フルゲート 18 頭のレースを想定し、条件等は全て一緒とします。
資金は 10000 円とします。

【サンプルレース 1】

単勝オッズ

一番人気 140 円

二番人気 730 円

三番人気 900 円

四番人気 1580 円

五番人気 1990 円

あとは 20 倍以上

まあ、割とよく目にするオッズですね。

要は、一頭抜けた馬がいるレースです。

オルフェーブルが G2 に出てきた、とイメージして頂ければ OK です。

あなたは本命馬を二番人気馬、三番人気馬、五番人気馬の 3 頭で絞りきれいで
ません。

さあ、あなたならどう買いますか？

私ならこう買います。

二番人気、三番人気、五番人気の単勝を購入。(つまり単勝の複数点買い)

金額配分は、自信の大きさに決めて構いません。

三頭がどれも等しく自信があるというのであれば、どの馬が買っても大体同じくらいの払い戻しになるように、

例えば、

二番人気 5000 円

三番人気 3500 円

五番人気 1500 円

とか。

二番人気馬が大本命で、他は若干抑えて買いたいのなら、

例えば、

二番人気 7000 円

三番人気 2000 円

五番人気 1000 円

とか。

配分はいろいろです。

お話したいのは、資金配分の事ではなく、単勝は、一点買いにこだわる必要はないという点です。

単勝馬券というと、何となく一点に絞らなければならない気になりますが、そんなルールは一切ありませんので。

では、次の場合はどうでしょうか？

【サンプルレース 2】

単勝オッズ

一番人気 140 円
二番人気 730 円
三番人気 900 円
四番人気 1580 円
五番人気 1990 円

あとは 20 倍以上

さきほどのレースと、全く一緒です。

違うのは、あなたは本命を一番人気・三番人気の 2 頭で迷っています。

さあ、馬券はどう買きましょう？

先ほどと同じ買い方ではダメなのはわかりますよね。

単勝が 140 円では、10000 円全額投資しても利益は 4000 円です。

期待値という観点から、このような馬券は購入すべきではありません。

例えどんなに自信があってもです。

使い古された格言ではありますが、競馬は所詮競馬です。

オルフェーブルやディープインパクトであっても、18 頭のうちの 1 頭に過ぎません。

落馬するかも知れないし、故障するかも知れない。

出遅れる事もあるし、進路妨害もあり得る。

もしかしたら体調が悪いかもしれない。

実は調教で、全く走らなかったのかもしれない。

しかし、切れるだけの材料はない。

実力は断然だし、臨戦過程も文句の付けようがない。

この競馬場では負け無しで、この距離もベストと言える。

騎手もデビュー以来ずっと乗り続けている超一流騎手。
他の馬は明らかに格下。

多分、この馬が勝つだろう。

しかし、外国人騎手にスイッチした三番人気の馬が不気味だ。
重賞実績はないものの今季絶好調で、ここまで四連勝。
しかも絶好枠を引いた。
重圧もないだろうし、マイペースで競馬が出来そう。
逆転のチャンスは、ある。

こんな感じのレースです。
イメージ出来ましたか？

さて、あなたならどうしますか？
どういう馬券を買いたいですか？

予算は、先ほどと同様の 10000 円です。
この 10000 円を、どのように投資しましょうか？
馬券は単勝？三連単？馬連？

先ほどと同様、少し考えてみて下さい。
考えがまとまりましたら、次のページで私の買い方を説明します。

私なら、このように買います。

三番人気の単勝 5000 円

三番人気の複勝 5000 円

どうでしたか？

あなたの買い目と同じでしたか？違っていましたか？

複勝馬券については、購入した事がない方も多くいらっしゃると思いますし、実際私もメインの馬券としては使用しません。

しかし、使い方次第では重宝します。

どういうことかと言うと「一番人気馬を切りきれないレースで、他の馬の単複で勝負する」という戦法です。

具体的には、その馬の複勝が 200 円を超えそうなレースでは、有効な戦略です。

資金の半分を複勝に入れば、例え一番人気馬が圧勝したとしても、狙いの馬が 3 着までに入れば、お金は戻ってきます。

キレイな中とは言えませんが、年間の回収率をプラスにするためには、大当たりとハズレの間にこういうアタリがないと、年間のトータル収支が苦しくなるという事を覚えておいて下さい。

もちろん、一番人気馬が消えれば、収支は大幅にプラスとなります。

複勝馬券については賛否両論あります。

フルゲート 18 頭だとしても、複勝の的中確率は 6 分の 1 ですから、他の馬券と比較して非常に的中確率は高いです。

それはわかりますよね。

実際、大口の投資家の中には、複勝だけで勝負している人も多いです。

但し、その掛け金は最低 10 万単位、多くは 100 万単位のものとなります。
一般人の感覚とは、大きな乖離があります。

30 万円の利益を目的として、100 万円を 130 円の複勝にぶち込むとか、そういった手法です。

これはこれで理にかなっているのですが、リスクを考えるとやはり私はおすすめ致しません。

それよりも、主力馬券はあくまでも単勝で、その保険として複勝を同額購入するという戦法をレコメンドします。

先ほどのサンプルレースのように、一番人気馬には逆らいにくいですが、オッズが低過ぎて一番人気馬から買っていては利益が期待出来ないという時に、この作戦は特に有効です。

一頭の馬が断然人気を集めれば、他の馬のオッズは相対的に高くなります。
当然複勝の倍率も上がるわけで、悪くない狙い目になります。

それならばそこから一步考えを進歩させて「複勝だけで勝負すればいいのではないか？」という発想が生まれてきそうですね。

実際、私も過去に一度、複勝だけを買うという作戦をとって見たことがあります。

その実体験を元にお話しすると、その作戦は止めた方がいいです。

収支的に大きく伸びないというデメリットもさることながら、複勝を狙い続けると「3 着以内を確実にキープしそうな馬」を探す思考になってしまいます。

これがいけません。

一着に来る馬を探すのが競馬の基本です。

あくまでも勝つ馬を探すのではありますが、競馬は何があるかわかりません。その時に、複勝を買っておけばお金が戻ってくる、という考えです。複勝で儲ける、というではありません。そこを間違えないようにして下さい。「善戦」と「勝利」は全く違います。

それから、前述のレースにおける、競馬ファンの多くがやりそうな、ダメな馬券の買い方について説明します。

それは「一番人気を一着固定して、三連単を買う」という方法です。

一見筋が通っていそうな馬券なのですが、こういうことをやっているうちは年間収支をプラスにすることは難しいです。

どうしてダメなのかおわかりでしょうか？

答えは、既にレポートの中で述べております。

「競馬は、2着には穴馬が来てもおかしくない。ましてや3着は、どんな馬だって可能性がある。」

この一言に尽きます。

つまり、一番人気一着固定をしても、三連単を取る為には、買い目を減らせないというのが理由になります。

3着には何が来てもおかしくないからです。

総流しか、あるいはそれに近い数の馬券を買う事になります。

馬単や三連単の特徴として、穴馬が来ても一着馬がガチガチの場合、オッズがそれほど高くないという特徴がありますので、リスクをとった割には低配当、という結果を招く可能性が高いのです。

私は全くおすすしめしません。

もしそれでもあなたが、どうしても三連単を買いたいと言うならば、二頭軸マルチにしてみてもいいでしょうか？

前述のレースで言えば、一番人気馬と三番人気馬の二頭軸マルチにするのです。

これには数学的な裏付けがあります。

一着固定の場合、総流しするとすれば買い目は 272 点買いとなり、均等買いの場合、最低でも 272 倍のオッズがつかなければ赤字となります。

説明した通り、ガチガチの馬が一着ですと、いかに三連単と言えども、それほど高配当にはなりません。取りガミの危険性大です。

これが二頭軸マルチの場合、総流ししても買い目は 96 通りで済み、万馬券になれば元が取れる計算になります。

更に絞って、一番人気馬と三番人気馬を一着固定の総流しでは、64 点で済みます。

馬券のイメージとしては、

①－③－他

①－③－他

③－①－他

③－他－①

という選択です。

勝つのは①か③、勝たなかった場合でも 3 着はキープするという考えです。

この方法ですと、一番人気馬がハナ差で 2 着に敗れたりした場合、かなりの高配当が期待出来ますので、悪くない方法ではないでしょうか。

このように、複勝や三連単も、使い方によっては価値があります。

しかし、あくまでも基本は単勝です。そこを忘れないで下さい。

私の馬券術で必ず守るべき法則とは、おおむね以上です。

あなたの馬券力を 飛躍的に向上させる為に

その他にも法則とは言えないまでも「こういうケースはこうした方がいい」的なテクニックは数多くありますが、全てを紹介することは出来ませんし、全てのレースで必ず当てはまるという法則ではありません。

ですが、「危険な一番人気馬が出ているレース」を見つけることが、私の戦術の中核をなすものです。

先ほどあげたいいくつかの G1 レースで、具体的に解説していきますから、じっくりと読んで参考にしてください。

無論、同じレースは二度とありませんので、解説の結果をそっくりそのまま応用出来るわけではありませんが、中央競馬のレース番組というものは（若干の変更はあるとはいえ）毎年基本的に一緒です。

「あ、このレースは、レポートで解説したあの考えが参考になる」ということが、必ずあると思います。

その積み重ねが、あなたの馬券力を飛躍的に向上させます。

競馬は記憶力のスポーツです。

ひとつずつで構いません。

正しい知識を積み上げて、単勝馬券に活かして下さい。

それでは次以降で、具体的なレースを題材に、勝負レース選定の参考に成る様なヒントを、伝授していきたいと思います。

【1】 1992年の菊花賞から 学ぶこと

もうこのレースは、新聞の出走表を見た瞬間に閃いたレースです。
偶然にも、ミホノブルボンとライスシャワーが同枠。
何かの因縁を感じました。

ミホノブルボンは、今は亡き故戸山調教師が残した、最高傑作と呼ばれたサラブレッドです。戸山厩舎と言えば、とにかくスパルタ調教を馬に課す事で知られていました。ミホノブルボンのお尻あたりの筋肉は、まるでサイボーグかなにかのように、隆々であったのを覚えております。

デビュー以来、ここまで7戦7勝。
単勝100円台の圧倒的人気を背負い、どの新聞でも本命にしておりました。

対するライスシャワーは、これまでミホノブルボンには4戦して全て敗北。
もともと、ダービーでブルボンの2着に入ったことすら、フロック視するマスコミも多かったように思います。

世間は、ミホノブルボンの三冠達成を期待する雰囲気でお祭りムードでした。

ですが私の眼には、この菊花賞は絶好の勝負レースに見えました。
ミホノブルボンは、典型的な危険な一番人気馬！
元々母方の血統がステイヤー向きではなく、ダービーでは距離不安がささやかれていたのですが、蓋を開けてみれば圧勝。
これで、同馬の距離不安が快勝されたように世間は書き立てましたが、私は疑問でした。

「ちょっと待て。2400mのレースで距離を不安視していたのに、3000mの菊花賞でその事がそれほど話題にならないのは変だぞ。」

「久しぶりの三冠馬が生まれるかもしれないというお祭りムードで、その事に

は敢えて触れない向きがあるのではないか？」

「しかもこのレースには、キョウエイボーガンという同型の逃げ馬がいる。今までとは状況が違う。」

圧倒的人気馬をいつでも疑えというのではありませんが、その馬が何故一番人気になっているのか？

という理由を考えることは、重要なことです。

このレースの場合、ミホノブルボンが一番人気である事自体は不思議ではないのですが、オッズがどう考えても異常でした。

買われ過ぎです。

お祭りムードが、距離不安を打ち消していました。

対するライスシャワーは、血統的にバリバリのステイヤーです。

もともとカラダが小さく、このレースには 430kg 台で出走しています。

これは牡馬としては相当小さい方で、完全なマラソンランナーの様相を呈していました。菊花賞にはうってつけです。

それに、ミホノブルボンには 4 戦して全て負けているとは言え、レース毎に差を詰めています。

皐月賞では影も踏めなかった存在でしたが、ダービーでは 4 馬身、前走の京都新聞杯では 1 馬身半と、確実に背後に忍び寄っていました。

結果は、残り 100m で遂にミホノブルボンを捕まえて、ライスシャワーが優勝。

このレースから学ぶべき事は、以下の通りです。

レースに、何かいつもと違う異常なムードが漂っている時には、その渦中の馬を疑ってみて下さい。

オッズが、馬の実力と乖離している時があります。

また、特に若い馬の重賞（クラシックなど）では、血統を意識すべきです。

余談ですが、明らかに距離が長かったミホノブルボンは、一度はマチカネタン
ホイザにも差されそうになりましたが、根性で差し返しての二着。
負けてなお強し、の印象を残しましたね。

【2】 1996年の天皇賞春から 学ぶこと

ライスシャワーの菊花賞同様、一番人気馬を切るのは簡単でした。
このレースでラッキーだったのは、一番人気を切るついでに、二番人気も切れた事です。

この年の天皇賞は、トライアルの阪神大賞典組の二頭が人気になっていました。

ナリタブライアンと、マヤノトップガンです。

歴史に残るデットヒートだったので、覚えている方も多いと思います。
レースとしては非常に見応えがあり、私の好きなレースの一つです。

ですが、馬券術的には、このトライアルレースがいいヒントになり、二頭とも切るという決断を下せたのです。

まず、一着になったナリタブライアンは、昨年から明らかに調子を落としていました。飛ぶ鳥を落とす勢いだった4歳時とは違い「一体どうしてしまったのか」と思わせるような体たらくの5歳のシーズンでした。

これ、理由は簡単で、馬が消耗して、衰えたのです。

ナリタブライアンに限ったことではありませんが、サラブレッドは消耗品です。特に、厳しい流れとなるG1は、出走するだけで馬を消耗させます。

天皇賞秋、ジャパンカップ、有馬記念と、厳しいローテーションで連戦して来た（しかも結果が出なかった）同馬が、グランプリホースであるマヤノトップガンとあれだけ激しい争いをしたのですから、消耗しないわけがありません。

簡単にいうと、ガス欠です。

天皇賞に限った事ではありませんが、G1 レースの前哨戦では、なるべく余力を残した馬が、本番では強いです。

これは、その G1 の格が上であればあるほど、その傾向が顕著になります。

この年の例で言えば、ブライアンもトップガンも、前哨戦で燃え尽きたというイメージがありました。

そうでなくてもナリタブライアンに関して言えばピークを過ぎた感がありまして、そのブライアンに及ばなかったマヤノトップガンでも、単勝勝負は出来ないと判断出来ました。

この年の天皇賞春はそういう理由で、人気馬を切るところまでは簡単でした。ところが、本命馬を決めるのに少し難儀しました。

決め手となったのは、騎手です。

あなたにも、本命馬に迷ったら（つまり、馬の力が同じくらいだと判断したら）騎手で決める事をおすすめします。長距離戦では特にそうです。単純に考えて、馬に乗っている時間が短距離戦より長いですから、騎手の実力差が発揮される時間も長いという理屈です。

私は、名手岡部が手綱をとるベストタイアップと、休み明けの前走をラクに勝ち上がって余力十分の、横山のサクラローレルで悩みました。結果的に私がとった作戦は、こうです。

単勝を二通り購入する。

単勝は一点に絞らなければならないという決まりはありませんから。

特にこの年は、ブライアンとトップガンに人気が集まったせいで、3 番人気でも 14 倍以上の倍率でしたから。今思うと、二通りではなく、三通り、四通り買ったって、問題はありませんでしたね。

【3】 2001年のジャパンカップ から学ぶこと

私の競馬歴の中で唯一赤字になってしまったのが、西暦 2000 年です。
この年中央競馬は、テイエムオペラオー一頭のためにあったと言っても過言ではないでしょう。この馬にとことん逆らい続けてしまったのが原因です。

2001 年の JC で、ジャングルポケットでオペラオーを負かした時は、長いトンネルを抜けた気がしたものです。

私がテイエムオペラオーを避け続けた一番の理由は、「騎手」です。
前述の通り、私の馬券術では騎手を重視します。レースの格が上がれば上がるほど、そうします。

和田騎手は、私は「基本は G3、せいぜい G2 までの騎手」だと思っていました。
というより、今でもそう思っています。事実、和田騎手の G1 勝利は、全てテイエムオペラオーによるものです。

重賞では騎手を重視せよ、と私は口が酸っぱくなる程言っていますが、騎手の過去実績を調べるときには、数字だけで判断しないようにして下さい。
JRA のホームページでは、騎手毎の成績がすぐに調べられます。

基本的に、G1 レースを勝つ騎手は決まっています。

先ほど私が表にまとめた騎手ランキングをご覧下さい。

ランク S かランク A。
お手馬に乗って来た時のランク B とランクーB。

G1 に限れば、ほとんど全てここからです。

G1 以外の重賞も、まずはここに乘っている騎手が基本です。

ここに乘っていない騎手を本命にする時は、よっぽど強い根拠を持った上で、単勝を購入するようにして下さい。

以上の理由で、テイムオペラオーを切りました。

ジャングルポケットを本命に据えた理由の大半も、騎手が外国人のペリエだったからです。(それ以外に、府中が大得意という血統的背景もありますが)

外国人騎手は、どんな場合にでも注意が必要です。

彼らは日本に出稼ぎに来ています。毎回、本気で勝ちに来ています。

日本人の騎手が本気で騎乗していないとは言いませんが、競馬に対する環境や取り組み方がまるで違いますので、結果に差が出て当たり前です。

日本人の騎手には、先輩と後輩の関係があります。

詳しくは知りませんが、派閥のようなものもあるでしょう。

「自分が勝つことが一番だが、もし自分が勝てない展開になってしまったら、これは何をさしおいても、お世話になっている武豊さんが勝つ事が望ましい」

「自分は出来れば逃げたいのだが、このレースは蝦名さんが逃げ宣言している。邪魔をしてはいけない。二番手に控えよう。」

「同じ厩舎の四位さんの馬の進路を塞いだら、あとでオーナーに怒られる」

外国人騎手には、このような心理的葛藤などありません。

しがらみも少ないはずです。乗りたいように騎乗します。

この差が結果にもたらす影響は大きいですよ！

「外国人騎手は、日本人のトップレベル、あるいはそれ以上の存在」

【4】 2002年の有馬記念から 学ぶこと

未だもって謎の残るレースです。

何が謎かという、勝ったシンボリクリスエスがどうして二番人気だったのか、ということです。

私はレース前々日の段階で新聞を見たとき、一番人気はシンボリクリスエス、二番人気にファインモーションだろう、と思っていました。

シンボリクリスエスの優位は動かないと思いましたが、恐らく単勝は200円位だろうなど。

ファインモーションには触手が動かないので、今年は買う馬券がないかな、と残念がったのを覚えています。

しかし、蓋を開けてみたら、一番人気はファインモーション。

シンボリクリスエスは土曜日の時点では、450円ほどついていました。

(最終的には370円)

私にしては珍しく、前日発売でシンボリクリスエスの単勝にぶち込んだのを覚えております。

G1の長距離戦で、牝馬が勝つのは至難の業です。

具体的には、天皇賞春、菊花賞、有馬記念の3つです。

この3つのレースでは、単勝からは外してもらって構わないと思います。ダイワスカーレットなどの例外もありますが、それは本当に例外だと思った方が無難です。一つの例外を的中させるには、その何十倍もの負けを覚悟しなくてはなりません。上記3つのレースでは、牝馬の単勝は外した方が賢明です。

G1 レースでも、上記 3 つ以外のレースであれば、牝馬も来ますよ。
特に、短距離であれば、牝馬だから云々ということは考える必要はありません。
2200m くらいまでは、牝馬でも牝馬でも差はあまりないという印象です。
ダービーや JC で牝馬が勝ったのには少々驚きましたが、本当に強い牝馬が条件
を満たせば、2400m までなら対応出来るということでしょうか。

本当に強い牝馬とは、牝馬の中に入っても見劣りせず、好不調の波が少ない馬
の事です。特に牝馬は調子の波が荒く、一度崩れたらなかなか立ち直らないと
いう特徴があります。

いい例が、三冠馬のスティルインラブ。三冠を取った事で、満足してしまった
のでしょうか（笑）。最近ではアパパネなんかもそうですね。
私がいう「本当に強い牝馬」とは、この 20 年では 4 頭しかいません。

エアグルーヴ

ウォッカ

ダイワスカーレット

ブエナビスタ

オークスは例外として、2400m の G1 ではその位の牝馬でないと用無しです。
「天皇賞春、菊花賞、有馬記念では、牝馬の単勝は不要」

【5】 2003年天皇賞春から 学ぶこと

「危険な一番人気馬を見つけること」が、本馬券術のキモの一つです。

このレースで言えば、G1 勝利のないダイタクバートラムが一番人気になっていました。

どんなに G1 を勝ちまくった馬であっても、初めての G1 勝利という日はあるはずなので、必ずしも G1 未勝利馬だからと言って蹴飛ばす理由にはなりません。

但しそれにはいくつか法則があります。

それは、他に G1 馬が出ていない
格下の G1 である
3 歳戦である

などの条件に当てはまる場合です。

この年の天皇賞は、確固たる本命馬が不在で、ダイタクバートラムはどちらかと言えば、押し出されて人気になったという感じの一番人気馬でした。こういう馬の特徴として、大崩れはしないものの、勝ち切るまでには至らないという傾向があります。これは覚えておいて下さい。

そしてその時に勝ちを攫うのは、実績のある馬と相場が決まっています。ここ数戦の結果がイマイチでも、過去に同じ様な条件のレースで、良績を残している馬が狙い目です。

先ほど競馬の基本と応用の話をしましたが、レースの格が上がる程、基本をしっかりおさえておかないと、なかなか馬券には結びつかないものです。

天皇賞春にも、いくつか基本があります。

このレースは、伝統的に菊花賞馬が強いレースです。

三冠最後にして、最長距離のこのレースを勝った馬は、よっぽどの事がない限り天皇賞春では凡走しません。

また、実力のある馬であっても、牝馬だと厳しいというのも、このレースの基本です。

このレースは、先に挙げた4つのレースに比べたら、少し難易度が高いとは思いますが、単勝に限れば決して取れないレースではありません。

私はヒシミラクル一点で勝負しましたが、ここまでのオッズがついているのであれば、単勝3点買い程度にしても、全くもって問題ないと思います。

繰り返しになりますが、競馬は二着、三着にはおよそどんな馬でも来ます。

しかし、一着になる馬は、ある程度決まっています。

フルゲート18頭のレースだとしても、平均的に言っておよそ半分の9頭は、善戦はしても優勝はしない馬だと、切り捨てることができます。

そうすれば、残り9頭の中からの選択になりますし、何度も言いますが、一頭に絞る必要はさらさらありません。

大切なのは、不安だからといって、他の馬券に浮気しないことです。

【6】 2008年のジャパンカップ ダートから学ぶこと

厩舎の勝負気配、というファクターに注目すると、馬券が上手になります。

もちろん、厩舎コメントにはそんな事は書かれてませんから、もっと別のアプローチをする必要があります。

調教方法を変えたり、メンコやブリンカーを試したり、主戦騎手が稽古をつけたりとか、サインはたくさんありますが、一番わかり易いサインは、騎手の乗り変わりです。

若手からベテランに変えて来たり、日本人から外国人にスイッチして来たりしたときには、陣営が「勝負に出ている」と読んだ方がいいでしょう。

本命にすることを考慮しなければなりません。

(逆に、ベテランから新人にスイッチして来たときは、少なくとも単勝からは外すことを、一度は検討すべきでしょう。)

このレースで言えば、中央のG1に合わせ、ルメールを乗せて来ました。

本気モード以外の、なにものでもありません。

恐ろしく分かりやすいサインが出ています。

もう一つ、陣営のやる気を計る指標に、レースの使い方というものがあります。

カネヒキリという馬は、ダート史上に残る名馬ですが、前走はG3の武蔵野ステークスを長期休み明けで使っています。

結果、いいところなく9着。

しかし、次走のG1で、外国人騎手にスイッチ。

これは私の推測ですが、前走の武蔵野ステークスでは、馬に無理をさせないような指示が出ていたのではないのでしょうか？

狙いはあくまでも G1 のジャパンカップダート。

前述のように、サラブレッドは消耗品ですから、全てのレースを全力で走れば、賞味期限が自ずと早まります。

誰がどう考えても、武蔵野ステークスはたたき台ですよ。

まず、長期休み明けの馬については、その可能性を疑ってかからなければなりません。

競走馬が、どんなレースでも全力で走るとするのは間違いです。

特に、カネヒキリのような有力馬であれば、体調さえ良ければ G1 を十分に狙えるわけですから、重賞といえどもたたき台にする可能性はあります。

これは厩舎の方針もあるでしょうが、そういう考えをもつ調教師は少なくありません。

重賞と言えども、たたき台にする場合はあるのです。

そして、叩いた二戦目に乗り替わりがあれば、勝負気配です。

【7】 2009年の有馬記念から 学ぶこと

今までのおさらい的なレース回顧になりますが、勉強の意味も含めて聞いて下さい。

たくさんのレースで勝負はするなど、何度も繰り返し言って来ました。

理由は、1レースあたりの分析に費やす時間が少なくなるからです。

考えれば考える程、単勝は当たり易くなります。

(それ以外の馬券はそうとも言えない)

2009年の有馬記念で言えば、前の年の2008年の有馬記念で、勝負をせず単勝を少し買い、観戦に努めた時の馬券が、ドリームジャーニーの単勝でした。

そのレースは落としましたが、代わりにドリームジャーニーに関しては相当に知識がついたと思っています。

2009年時も、無理のないステップで有馬記念に出てくれば、勝負できるなど思っていました。まさに理想的なローテーションでの出走。

これが、この馬を本命にした理由の一つ。

更に、騎手は(一流とは言えないまでも)ずっとこの馬に乗り続けている男、池添謙一。

三つ目は、有馬記念へのステップが良かった事です。

20年程前の有馬記念への王道ステップは、天皇賞秋、ジャパンカップ、有馬記念でした。

ところが最近はこれが変わって来ており、天皇賞かジャパンカップのどちらかをパスした方が、断然成績は上です。

これは、G1 を連戦するということが、想像以上に馬を消耗させるからだと思います。

私の記憶の中には、天皇賞秋、ジャパンカップ、有馬記念を連覇した馬は、ここ 20 年の間にはゼンノロブロイしかいません。

通常、天皇賞秋やジャパンカップに直接参戦するのではなく、毎日王冠とかオールカマーなどのステップレースをはさみますから、それを数えると秋に 4 戦ということになります。

これは、明らかにオーバーペース。ガス欠になります。

昔はそれでも成り立っていたのかも知れませんが、時代は変わって来ています。

最後の理由は、一番人気に推されたのが、三歳牝馬のブエナビスタであったことです。有馬記念では牝馬の単勝はいらないというのが、持論の一つであることと、ブエナビスタはこの年、ほとんど休む事なく重賞（G1 が多い）を使われ続けています。夏に放牧に出す事もなく、なんとこの年重賞を 7 戦。

これは明らかに使い過ぎです。危険な一番人気馬、そのものですね。

（それでも僅差の 2 着に来ている事を考えると、ブエナビスタは相当な馬です）

競馬は記憶力のスポーツであると同時に、単勝は知識を裏切らない、ということを示す良い例です。

【8】 2010年の有馬記念から 学ぶこと

昨年に引き続き、女傑ブエナビスタが一番人気になっていました。当然、期待値は低いものとなりますので、ここは切り、です。切った理由は昨年とほぼ一緒ですので、省略。

結果的に勝ちを逃しましたが、またしても僅差の2着にきています。脚質的に合うとは思えない中山の2500mで、連続2着。まったくもってタフな馬ですし、スゴイ馬だと思いました。

しかし、このレースを制したのは、皐月賞馬のヴィクトワールピサ。

実を言うと、このレースで私の本命馬は、内田騎手騎乗のエイシンフラッシュでした。この年のダービー馬ですね。

でも、エイシンフラッシュ一頭に決め打ちするまでの自信がなく、ヴィクトワールピサの単勝も購入しておいたのです。それが正解でした。

単勝は、1点買いにこだわる必要はありません。

あらためてそのことを感じました。

しかし、このレースを見ていると、いかに日本の競馬界の中で、外国人騎手がアドバンテージを得ているかが、よくわかります。何しろ、3着まで全て外国人騎手です。

まるで大相撲を見ているようですね。日本人騎手、どうしちゃったんでしょう。

まあそういう理由で、単勝の複数買いはおすすめの戦法ですが、一番人気を切るというのが前提ですよ。

一番人気の単勝まで買っていたら、完全に取りガミになります。長期的には。

競馬のコツは、一番人気を切る事なんです。

一番人気から買っていたのでは、どんな馬券でも最終的に黒字にはなりません。的中率は上がるでしょうけど、大切なのは回収率ですから。

一番人気馬に手を出してはならない理由は、単勝は期待値が低過ぎて買いにくいことと、二着、三着には、知識が邪魔して買えない馬が来るのが競馬だからです。

一番人気馬からでも点数を絞って買えばいい、という意見がありそうですが、点数を絞ったら絶対に買えない馬が二着に来るのが競馬ということです。

それでも一番人気馬を外せない、というレースでは、応援単勝馬券を1000円買って、じっくりと観戦するのが競馬力向上の近道です。

一番人気馬を切る事が出来ないというレースで、それでも勝負をしたいという場合があるかも知れません。

基本的には勝負を我慢をしていただくことが一番なのですが、どうしても勝負をしたい場合、あまりおすすめできない方法ではあるものの単勝以外の馬券で勝負するという方法もあります。

方法は二つあります。

一つは、一番人気馬以外に、本命にするか迷った馬がいる場合。

そういう場合は、その馬の単勝と複勝を同額購入して下さい。

これなら例え一番人気馬が勝っても、狙った馬が 3 着までに入ればお金は戻ってきます。もちろん、その馬が番狂わせをするようだと大幅プラス。

もしくは、三連単をその馬と一番人気馬の二頭軸で買う方法。
保険をかけつつ、高配当を狙うやり方です。
やってはいけないのが、一番人気一着固定です。
これはまさに、ハイリスクローリターン。

もう一つのケースとして、一番人気馬以外に本命馬がない場合。
これはもう、私はほとんど観戦モードに入ります。
ですがそうではなく、どうしても勝負したいという場合の話です。

おすすりは出来ませんが、方法はあります。

馬単か三連単を、一番人気馬を二着付けで買って下さい。
その保険として、馬連を購入して下さい。
こうすると、配当こそ大きくなるものの、自分が本命とした馬が負けるように願ってレースを観戦することになり、あまり自分としては好きになれない方法です。

しかしながら実入りとしては悪くないので、年に数回ですがこの方法で勝負することもあります。

2013年と言えば、この方法を使用したのはロードカナロアが勝ったスプリンターズSと、ジェンティルドンナが勝ったジャパンカップだけです。

「どう考えてもこの馬が連を外す気がしない。でも単勝の期待値は低過ぎる。」

というような場合にのみ使う、裏技みたいなものです。
1着はダメだけど、2着には来てね、という、応援しにくい馬券です。

ちなみに、両方とも本命馬に勝たれてしまい保険の馬連のみの的中となってしまう（笑）

さいごに

さて、どうでしたでしょうか、私の馬券術。
乱文乱筆にも程があるとう読みにくい文章で、申し訳ありません。
キレイに筋道建てて書こうとは思っていたのですが、

書いているうちに「アレも話したい。コレも伝えたい。」と、欲が出て来てしま
いまして。

ついつい、このような長文になってしまいました。
でも、内容は理解して頂けましたでしょうか？
危険な一番人気馬を見つけること、見つけたら、その馬を切り、躊躇なく勝負
すること。
見つけられなかったら、その日の勝負は我慢すること。
そのかわり、レースを観戦して、知識を溜め込むこと。
溜め込んだ記憶は忘れないようにして、次回に活かすこと。

そんな事を中心に、お話してきたつもりです。

躊躇なく勝負する実行力・我慢する実行力、どちらも大切です。

ここまでお読み頂きまして、誠にありがとうございました。
競馬場を訪れる人のうち、勝ち組は2割に満たないそうですが、あなたがその2
割に入れるよう、心よりお祈りしております。
その手助けとして、本レポートがお役に立てれば幸いです。

追伸

このレポートは2014年1月現在で書かれたものですが、原稿を完成させた直後の2014年2月2日、私の馬券術がそっくりそのまま当てはまり、東西重賞両方とも的中させた事例が発生致しました。

その次の週以降も好調が続き、収支は大幅にプラスをキープしております。

具体的な馬券の買い方の参考になるのではないかと思います、急遽加筆させて頂くことに致しました。

年間の回収率200%をキープし続ける男が、どのような思考方法で馬券を購入するのか？

なぜその馬を買うのか？

また、この馬を切る理由は？

全てを言葉で表現するのは難しいことですが出来るだけ詳細に、その時の心理状況なども含め、ご紹介したいと思います。

次回からのあなたの馬券購入に、プラスの影響をもたらす事が出来れば、非常に嬉しいです。

【2014年2月2日 京都11R シルクロードS (G3)】

まず注目したのが、京都競馬場の馬場の荒れ具合です。

仮柵を内側に移動したとはいえ、テレビ画面で観ても一目瞭然であるぐらい、芝が痛んでいました。

良馬場発表ではありましたが、チカラのいるコンディションであることは疑いようありません。

こういう日は、逃げ馬にとってはなかなか厳しい展開になりがちです。スピードに任せての行った行ったのレースになることは、あまりありません。

紙面を見ると、ダントツの一番人気は1枠1番のレディオブオペラ。

この距離で連勝中の4歳牝馬であり、その大半が余裕残しの楽勝であった事が評価され、直前の単勝オッズは140円でした。

しかし、この時既に私は、同馬が危険な一番人気馬であると見抜いていました。理由は以下の3つです。

逃げ馬に有利とは言えない馬場状態であること。

すぐ隣の1枠2番と2枠3番に、実力のある馬がおり、マークされる公算が高かったこと。しかも騎手が岩田と浜中。

同馬の騎手が藤田で、ここ数年めっきり調子を落としていること。

140円は、明らかに買われ過ぎだと思いました。

更に追い打ちをかけたのが、馬体重マイナス14kg。

これはダメです！とても買えません。

馬体重はそれほど参考にする必要はない、と私は言いましたが、ここまで明らかなサインが出ているとさすがに見逃せません。

連戦連勝で出走してきている若いアガリ馬は、馬体重をキープしていることが大切です。

回を追う毎にメンバーは厳しくなるなかで、勝ちを積み重ねていくのですから、消耗度は大きいはずです。特に若い馬であれば、馬体の成長分も欲しいところ

です。少々体重が増えていた方が安心して買えます。
最低でも、プラスマイナス0kgで出走して欲しいところです。

この場合のマイナス14kgなど「馬が消耗している」サイン以外のなにものでもありません。

以上の理由により、私は①レディオブオペラを切りました。

さて、困ったのは本命馬の選択です。

岩田騎手騎乗の②ストレイトガール（単勝520円）
浜中騎手騎乗の③ブレイズエターナル（単勝710円）

どちらを本命にするか非常に迷いました。

②のストレイトガールは、函館の芝1200mを主戦場として来た馬。
この馬に限らず、フジキセキ産駒というのは内枠が得意で、大外をぶん回すというよりも器用にインを突くというタイプが多いです。

（もし時間があれば、ストレイトガールの過去のレースビデオを観て下さい。
フジキセキ産駒の特徴そのままです。）

サンデーサイレンス系統の馬には珍しく、短距離戦に良績があるのも好材料と言えました。

しかも、騎手は名手岩田康誠。

独特のスタイルからインを強襲するレースが、とても目立ちます。

（皐月賞のヴィクトワールピサがいい例）

しかし、この馬は良績が函館のような小回りに集中しており、京都競馬場の長い直線に脚質が合うのか、未知数な部分がありました。

また、夏馬というイメージも根強かったため、この厳冬期の京都で走るのか、疑問でもありました。

これに対し、③ブレイズエターナルは、京都の芝 1200m に実績があります。

これまでのレース実績でいうとストレイトガールに軍配があがりますが、中段から後方でレースが出来る強みがありますし、前走で減った体重を戻して来たところも評価出来ました。

鞍上も、一度この馬を経験しています。

非常に悩みました。

悩んだ末に、私が下した決断は次の通りです。

岩田と浜中、両方の単勝を購入。

どちらか一つ選べと言われたら、不安要素の少なかった浜中の③を選んでいたと思います。しかし、岩田の②を切りきれなかった。

競馬にはこのように「突き詰めるとこの二頭のうちどちらかだろう」という事がままあります。

オッズにもよりますが、そういう時は単勝を複数買えばいいのです。

レースは、逃げた①レディオブオペラを直線で②ストレイトガールが捉え、そのまま優勝。③は6着でした。

単勝一点にこだわっていたら、負けていたのです。

こういうことが競馬には、よくあります。

【2014年2月2日 東京競馬場 11R 根岸ステークス (G3)】

⑬ブライトライン、②アドマイヤロイヤルが、それぞれ一番人気、三番人気に指示されていました。

私にはこの二頭が、危険な人気馬に映りました。

そもそもこのレースは、一番人気から五番人気くらいまでは、それほど実力差がないと思っていました。

戸崎騎手の⑬ブライトラインが辛うじて一番人気に支持されてはいたものの、当日午前中の単勝オッズは 350 円近辺をウロウロ。

最終的には 280 円まで落ちましたが、それでも二番人気のドリームバレンチノとは 120 円しか差がありません。

ちなみに前日までは、ドリームバレンチノの方が一番人気でした。

ブライトラインは弱い馬ではなく、東京のダート 1400m も走るのですが、この馬が人気になっている理由は、前走の G1 レース、ジャパンカップダートで 4 着に入った事です。

ところが、ここに盲点があります。

レースをよく振り返って欲しいのですが、当日のブライトラインは 7 番人気です。その前のみやこステークスを勝ち上がっている割には、かなりの低評価だと言えます。

みやこステークスでブライトラインに敗れたローマンレジェンドの方が、ジャパンカップダートでは人気になっています。

そのローマンレジェンドは、ジャパンカップダートを惨敗。

何が言いたいかというと、みやこステークスは G3 ではありますが、相当にレベルが低かったということです。

みやこステークスはジャパンカップダートのトライアル的なレースであり、こ

の年もみやこステークス組が 6 頭も出走しておりますが、1 頭として馬券に絡んだ馬はいません。

この事実だけをもってしても、トライアルの名にふさわしくないメンバー構成だったということです。

また、ジャパンカップダートの 4 着も、福永騎手が相当に上手く乗ったな、というイメージがあります。

馬券圏内の 3 頭とは差があり、着順だけで評価はしにくいところです。

しかもその福永は騎乗停止中で手綱を取れず、代役としてテン乗りの戸崎圭太。

戸崎は一流の騎手ですが、テン乗りは一枚割り引いて考えないといけません。特に今回のような、人気分散しているレースでは余計にそうです。

ブライトラインの単勝が 800 円位ついていたら、この馬を本命にした可能性もなくはないですが、280 円は明らかに買われ過ぎだと思えました。

以上が、単勝からこの馬を外した理由です。

シルクロード S のレディオブオペラほどではないにしろ、根拠を持って切っています。

三番人気のアドマイヤロイヤルについては、もっと明確な理由をもって排除しました。

それは騎手です。

四位騎手の最近の成績をご存知でしょうか？

ディープスカイでダービーを勝ったこの人は、なんと 2011 年からの 3 年間は、リーディングベスト 20 にも入っていません。

重賞となると、もっと燦々たる結果です。

G1 レース 13 勝を含む、68 の重賞で勝ち星を挙げたこの男が、2011 年以降の重賞勝ちに限ると、僅かに 2 鞍です。

一体、どうしたというのでしょうか。

馬がどうのこうの言う前に、まず鞍上が不安で本命には出来ません。

レポート内でも説明しましたが、レースの格が上がれば上がるほど、騎手を重視しないと馬券に結びつきません。

騎手の世界はスランプの「大富豪」ゲームに似ていて、レースで勝てば勝つ程、良い馬を回してもらえるので更に勝ち星が増える、というシステムになっています。当然、逆もまた然り、です。

どこかの厩舎の専属騎手であればまだいいですが、フリーのジョッキーだとこの傾向は更に強いものとなります。

騎手の世界はシビアなものですから、一度落ち目を見ると、なかなか這い上がって来れません。

それは大きなケガが原因であったり、厩舎との関係が悪化した結果であったりと、理由はさまざまですが、復活するのはかなり難しいものです。

今だと、藤田騎手、後藤騎手なんかがそうですよね。

あの武豊騎手でさえ、今は完全にスランプを脱出したと言えますが、一時ほどの新聞を読んでも「武豊は終わった」と書かれていましたから。

キズナでダービーを勝った時の、彼のインタビューが印象的です。

「僕は帰って来ました！」と言ってましたよね。

まさにその通りの感想なんだろうな、と思います。

話が逸れましたが、騎手がスランプに陥ると、立て直すのは難しい。

可能性はゼロではありませんが、単勝をごっそりと買うのは控えるべきです。

「スランプ騎手の単勝を買うのは、その騎手が再び重賞を勝った後にせよ」

これも、私が作った格言の一つです。

重賞で、四位、後藤、藤田を買うのは、復活を見届けた後にすべきです。

アドマイヤロイヤルの実力については、ブライトラインと同じかやや下、程度に捉えていました。

仮に騎手がルメールにでも代われれば、本命候補だったかもしれません。

こうして二頭の人気馬を切ったわけですが、またしても本命馬に悩みました。

私が有力だと思った馬は、⑥ゴールスキー、⑧ドリームバレンチノ、⑭シルクフォーチュンの三頭です。

この三頭は全て臨戦過程が異なりますので、一概にどの馬が強いとは言い切れませんでした。

レース展開一つで着順が代わるような関係ではないかと思います。

騎手もそれぞれベリー、内田、横山と、減点材料はありません。

ここで気にすると思うのは、馬の年齢です。

ゴールスキーとドリームバレンチノは7歳、シルクフォーチュンは8歳です。

ですが、この時期の馬年齢は、それほど気にしない方がいいですよ。

7歳と言っても、ほんのちょっと前まで6歳だった馬です。

同じ7歳でも、1月開催の7歳馬と、12月開催の7歳馬では、全然意味が違いますからね。

この事は盲点とも言えるので、年始シーズンの高齢馬を狙うというのは、戦術的にアリです。

特に、ダートのレースは芝よりも高齢馬が活躍する傾向にあります。

芝で成績がふるわなくなった高齢馬が、ダートに転向して復活するという話はよく聞きますし、芝よりも脚に優しい分、長く競争生活を送れるからではないかと考えております。

この三頭を検討した結果、まず⑭シルクフォーチュンを切りました。

この馬は確かに追い込みの脚は強烈ですが、あまりにも展開に左右される上、出遅れ癖があるからです。

武蔵野 S の VTR を観て頂ければ一目瞭然なのですが、さすがに単勝にするには勇気がいります。

厩舎サイドもこの馬の戦法を決めているようで、どんな場合でも最後尾を追走し、直線に賭けるという作戦です。

左回り、右回りは問いませんし、ハマれば確かに強烈なのですが、それにはもっとペースが上がるようなメンバー構成が必要ですね。

もう引退しましたが、ダートなら例えばエスポワールシチーやトランセンドのような、強烈な先行馬が揃った時のダークホースになります。

まだまだ馬券になる馬だと思います（実際、今回も 3 着に来た）が、単勝を買うのはここではないとして、パス。

残った二頭のうち、私がより本命に推していたのは、ベリーにスイッチした、⑥ゴールスキーです。

理由はいろいろありますが、私は特に斤量に着目しました。

斤量に関してあまり気にしない競馬ファンが多いみたいなのですが、それは間違いだと思います。

気にしなくてもいいのは、軽量の時です。

前走 52kg が 53kg に増えるとか、逆に 51kg が 50kg に減ったとか。

こんなのは、ほとんど気にする必要はありません。

気にしなければならないのは、斤量が重い時です。

特に、牡馬なら 57kg、牝馬なら 55kg を基準に考えて下さい。

この斤量を超えての 1kg 増は、サラブレッドにとっては大きいのです。
馬体の大きな馬であればまだいいですが、ゴールスキーもドリームバレンチノもシルクフォーチュンも、470kg～480kg 台で勝負してくる馬。
500kg 超の馬が当たり前のダート馬としては、決して大きい方ではありません。

ちょっと話が逸れますが、ダートの競争や、芝の短距離戦では、馬体の大きい馬を狙うのが基本です。

古くはヒシアケボノとか、デカかったですね。

反対に、芝の長距離戦では、あまり大きい馬は来ないと思って下さい。

ライスシャワーも、ディープインパクトも、430kg～440kg 台で活躍した馬です。
(もちろん、シンボリクリスエスのような例外もありますので、あくまでも参考までに。)

イメージとしては、オリンピックの 100m 走では筋肉ムキムキの選手ばかりですが、マラソンランナーは無駄な肉は一切ありませんよね。
ああいうイメージでおおよそ間違っておりません。

さて、私が何が言いたいかというと、牡馬の 57kg 近辺の 1kg は、みなさんが思っている以上に結果に影響するということです。

一概には言えないのであくまで参考程度にとどめて欲しいのですが、馬の斤量についてはこんな考えを持っています。

牝馬（古馬）

55kg 以下……非常に軽い

56kg……………軽い

57kg……………標準

58kg……………重い

59kg 以上……非常に重い

牝馬（古馬）

53kg 以下……非常に軽い

54kg……………軽い

55kg……………標準

56kg……………重い

57kg 以上……非常に重い

3歳の夏までは、この表よりマイナス 2kg、3歳の秋以降は、この表よりマイナス 1kg と考えて下さい。

斤量は、特に牝馬には効いてきます。

57kg を背負った牝馬が勝ったレースなんて、ちょっと記憶にないくらいです。

この 1kg 差の斤量と、外国人のベリーで勝負を掛けてきたという点が、最大の理由でした。

このレースの本命は、⑥ゴールスキー。

ただし、⑧ドリームバレンチノがあまりにも不気味で、切りきれませんでした。

この馬は前走、前々走と、地方競馬を使ってきています。

地方競馬を使ってくる馬の実力は、わかりにくいものです。

同じ競馬でも、中央競馬と地方競馬は全く別モノと考えた方が無難です。

競馬と競輪くらい違うかも知れません。

私も、地方競馬はあまりにも当たらないので、もう何年も手を出していません。

なので、地方を圧勝して中央に参戦して来た馬を、甘く見ない方がいいです。

とくにこの馬の場合、中央競馬の芝短距離戦でも、そこそこの成績をおさめています。

これは切りきれないと判断し、私はゴールスキーとドリームバレンチノの単勝、二点買いをしました。

結果としては本命のゴールスキーが勝ち、ドリームバレンチノは惨敗しましたが、これでいいのです。

【2014年2月9日 京都競馬場 きさらぎ賞 (G3)】

このレースの本命は割とすぐに決まりました。

勝ったトーセンスターダムです。

人気を集めたバンドワゴンについては、デビュー戦、前走ともに他馬を突き放しての楽勝だったために、実力以上に馬券が買われていました。

確かに現時点では強い馬の一頭には入ると思いますが、楽勝した次走、人気になっている馬は、買われ過ぎている事が多いです。

これは一概には言えないので、レースのVTRを良く観察することが重要です。

同じ競馬場、同じ距離、同じ時計、同じ着差での勝利でも、レース展開や芝の状態、他馬の強さなどによって、評価は全く変わってきます。

基本的に、私は時計を重視しません。

レースの時計というものは、レースの格が上がるからといってそれに比例するものではなく、コースレコードが条件戦で飛び出す事も珍しくありません。

基本的に時計を参考にして馬の強さは比較出来ない、と思っています。

ラスト3ハロンの時計で判断する、という競馬記者もいるようですが、これも根拠としては弱いですね。

そのレースのペースや、馬場コンディションによって、いくらでも時計は変わってきます。

アガリ33秒台の脚を使ったので、いつでもこの馬は終いはキレる、とは言い切れません。

全馬ともに、33秒台で走ったレースだったのかも知れませんから。

話を戻すと、バンドワゴンを切ったのは時計が理由ではないという事です。

まず、楽勝した次走の馬は買われ過ぎる傾向にある、という法則を知っていたので疑ってかかった、というところが出発点。

次に、父ホワイトマズルの傾向として、どちらかと夏に走る血統であるということと、3歳のこの時期よりも、古馬になってからの活躍が目立つ血統である点。

騎手が和田竜二で、重賞での信頼感が今ひとつであるという点。

京都競馬場が荒れてきており、マークされる形のバンドワゴンにとっては、今までのようにはいかないのではないか、という懸念。

そして極めつけは、そのバンドワゴンを目標にレースを運ぶのが、サンデーサイレンス系の申し子とも言える武豊。

ホワイトマズルもいい種牡馬ではあると思いますが、トーセンスターダムの血統には敵いません。

何しろ父ディープリンパクト、母の父エンドスウィープです。

京都という長い直線のある競馬場で、この距離。

走らない方がおかしい。

バンドワゴンとは違い、前走は脂っこいメンバーと戦ってきており、アタマ差ではあるものの、一頭だけ違う脚色でキッチリ差しきっています。

(こういうのも、レース VTR を観ないとなかなかわからない)

というわけで、本命はすんなりとトーセンスターダム。

対抗はバンドワゴン。

それ以外の馬は、二枚も三枚も落ちるメンバー構成でした。

何度も言いますが、2歳・3歳のレースは、血統を重視して下さいね。

特に重賞では。これ、重要です。軽く考えている人、多いです。

さて、こんな感じで狙い目はすんなり決まったのですが、アタマを悩ませたのは馬券の買い方です。

突き詰めれば競馬というものは、馬券の買い方が難しい。

これは、中級者以上の競馬ファンであれば、なんとなくおわかり頂けるかと思えます。

このレース、一番人気は⑤バンドワゴンで、160円。
二番人気は①トーセンスターダムで、250円。

ちなみに、馬連①-⑤は150円、馬単①-⑤は380円。

この二頭以外に有力な馬がいなかったため、他の馬の数字はあまり記憶にありません。

さて、あなたならどう買いますか？

私はこのレースを購入して的中させたので、結果オーライと言えますが、冷静になってこのレースを振り返った結果、最善の作戦は、

「購入しない。見送る」

というものだったと思います。

頭数が少ないというのも影響していますが、いくら自信があっても、このような低オッズのレースで勝負するというのは、長い目で見ると良くないことです。

参考までに言っておきますと、このレポートをここまで読んで、かつ馬連①-⑤に大勝負、という判断を下す人は、今すぐ競馬を止めた方がいいです。

(本レポートの内容を全く理解していない証拠です)

馬単①-⑤に大勝負、ならまだわかりますが、やはり期待値を考えるとおすすめ出来る馬券ではありませんね。

ちなみに私は、①の単勝を 10000 円だけ購入しました。

いわゆる「勝負」ではありませんが、レースに参加しただけの金額にしてはちょっと大きいので、自分でもどっちつかずの中途半端な馬券を購入してしまったかな、と反省はしております。